

IBM

@server

iSeries

Content Manager OnDemand for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

Content Manager OnDemand for iSeries コマンド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、167ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Content Manager OnDemand for iSeries (プロダクト番号 5722-RD1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： iSeries
Content Manager OnDemand for iSeries Commands
Version 5 Release 3

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

ONDEMANDへの報告書の追加 (ADDRPTOND)	1	ONDEMANDの報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)	65
CM FOR ONDEMANDへの追加 (ADDVIRDAR)	11	ONDEMANDのテキストの印刷 (PRTTXTOND)	69
報告書定義のコピー (CPYDFNRDAR)	15	AFP スプール・ファイル・テキストの印刷 (PRTTXTRDAR)	75
光ディスク・ファイルのコピー (CPYOFRDAR)	21	ONDEMANDの報告書の再利用 (RCLRPTRDAR)	81
論理光ディスク・ファイルの作成 (CRTLOFRDAR)	25	ONDEMANDからの報告書の除去 (RMVRPTOND)	87
物理光ディスク・ファイルの作成 (CRTPOFRDAR)	27	CM FOR ONDEMANDからの除去 (RMVVIRDAR)	91
光ディスク・ファイルの削除 (DLTOFRDAR)	31	ONDEMANDを使用した保存の開始 (STRARCRDAR)	95
ONDEMANDの報告書の削除 (DLTRPTRDAR)	33	保存記憶域管理開始 (STRASMOND)	99
光ディスク・ファイル記述表示 (DSPOFDRDAR)	37	コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)	103
光ディスク・ファイルの表示 (DSPOFRDAR)	39	ディスク記憶域管理の開始 (STRDSMOND)	111
ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONOND)	41	ONDEMANDへのインポートの開始 (STRIMPOND)	117
ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONRDAR)	45	ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONOND)	121
ONDEMANDのキーの検索 (FNDKEYOND)	47	ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONRDAR)	133
ONDEMANDを使用したキー検索 (FNDKEYRDAR)	51	オブジェクト管理サイクルの開始 (STROMCRDAR)	141
ONDEMANDを使用した報告書検索 (FNDRPTRDAR)	55	報告書管理サイクルの開始 (STRRMCRDAR)	143
ONDEMANDからの報告書の印刷 (PRTRPTOND)	59	ONDEMANDを使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)	147

ONDEMANDの管理の処理 (WRKADMRDAR)	153
ONDEMANDの媒体の処理 (WRKMEDRDAR)	159

ONDEMANDの機密保護の処理 (WRKSECRDAR)	163
付録. 特記事項	167

ONDEMANDへの報告書の追加 (ADDRPTOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDへの報告書の追加 (ADDRPTOND)コマンドによって、ONDEMANDに報告書をロードすることができます。この処理中に必要な場合には、報告書を複数のセグメントに分割し、索引付けし、圧縮し、さらに検索のためにディスク上に記憶し、後から光ディスクまたはテープ媒体に移行させます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRP	アプリケーション・グループ	文字値	必須, 定位置 1
APP	アプリケーション	文字値	オプション
INPUT	入力	*SPLF, *FILE, *STMF	オプション
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション
STMF	ストリーム・ファイル	パス名	オプション
SPLF	スプール・ファイル	名前	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成	時刻, *ONLY, *LAST	
INSTANCE	インスタンス	文字値, QUSROND	オプション
DLTINPUT	入力の削除	*NO, *YES	オプション
IDXONLY	索引付けのみの実行	*NO, *YES	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS, *LIBL, *CURLIB	
ERROPT	エラー・オプション	*RMVRPT, *NORMVRPT	オプション

アプリケーション・グループ (APPGRP)

ロード・プロセスで使用するアプリケーション・グループの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、パラメーターINSTANCEがQUSRONDでない場合には、有効でないことがあります。

名前 アプリケーション・グループ名を指定します。入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

*JOBNAME

アプリケーション・グループ名のソースとしてジョブ名を使用します。

次の特殊値は、パラメーターINPUTが*SPLFの場合にのみ有効です。

*SPLFNAME

アプリケーション・グループ名のソースとしてスプール・ファイル名を使用します。

*FORMTYPE

アプリケーション・グループ名のソースとして用紙タイプを使用します。

*USERDATA

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー・データを使用します。

*USRDFNOPT1

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

*USRDFNOPT2

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

*USRDFNOPT3

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

*USRDFNOPT4

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

*USRDFNDTA

アプリケーション・グループ名のソースとしてユーザー定義データを使用します。

アプリケーション (APP)

ロード・プロセスで使用するアプリケーションの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、パラメーターINSTANCEがQUSRONDでない場合には、有効でないことがあります。

***APPGRP**

アプリケーション名のソースとしてアプリケーション・グループ名を使用します。この値は、アプリケーションの名前に関係なく、アプリケーション・グループにアプリケーションが1つしか含まれていない場合にも機能します。

***JOBNAME**

アプリケーション名のソースとしてジョブ名を使用します。

名前 アプリケーション名を指定してください。入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

次の特殊値は、パラメーターINPUTが*SPLFの場合にのみ有効です。

***SPLFNAME**

アプリケーション名のソースとしてスプール・ファイル名を使用します。

***FORMTYPE**

アプリケーション名のソースとして用紙タイプを使用します。

***USERDATA**

アプリケーション名のソースとしてユーザー・データを使用します。

***USRDFNOPT1**

アプリケーション名のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

***USRDFNOPT2**

アプリケーション名のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

***USRDFNOPT3**

アプリケーション名のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

***USRDFNOPT4**

アプリケーション名のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

***USRDFNDTA**

アプリケーション名のソースとしてユーザー定義データを使用します。

トップ

入力 (INPUT)

ロードするデータを見つける場所を指定します。

***SPLF** 入力データは、SPLF、JOB、およびSPLNBRパラメーターで指定されたスプール・ファイルから読み取られます。

***FILE** 入力データは、FILEおよびMBRパラメーターで指定されたデータベース・ファイルから読み取られます。

***STMF**

入力データは、STMFパラメーターで指定されたストリーム・ファイルから読み取られます。

トップ

ファイル (FILE)

ロードするデータが入っているデータベース・ファイルを指定します。

修飾子1: ファイル

名前 記憶する報告書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。このデータの各行の最初の文字には、有効な用紙制御文字が入っていなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ロードするデータが入っているデータベース・メンバーの名前を指定します。

***FIRST**

データベース・ファイルの最初のメンバーに、ロードする報告書データが入っています。

***LAST** データベース・ファイルの最後のメンバーに、ロードする報告書データが入っています。

メンバー名

ロードするデータが入っているデータベース・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル (STMF)

ロードするデータが入っているストリーム・ファイルへのパスを指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル (SPLF)

ロード・プロセスへの入力として使用するスプール・ファイルの名前を指定します。これは、ファイルの作成時にユーザー・プログラムによって指定されたファイル名であるか、あるいはこのファイルの作成時に使用された装置ファイルの名前です。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを生成したジョブの名前を指定します。

* このコマンドを入力したジョブを使用します。

ジョブ名

使用するジョブの名前を指定します。ジョブ修飾子を指定しない場合には、システム上に現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合には、すべての重複した修飾ジョブ名が含まれるメッセージのリストが表示されます。

ユーザー名

ジョブを実行しているそのユーザー・プロファイルを識別する名前を指定します。

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

ロードするジョブのスプール・ファイルを番号によって指定します。

*ONLY

指定されたファイル名をもつスプール・ファイルは、このジョブでは1つだけです。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名で最高位の番号のスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、ジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイルの作成日時パラメーターがスプール・ファイル番号より優先される場合には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

使用するよう指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時のスプール・ファイルが1つあります。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時で現行システム上に作成されたスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、スプール・ファイルの作成日時パラメーターがジョブ・システム名より優先される場合には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定してください。

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最新の作成日時のスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定してください。

可能な作成時刻値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最新の作成時刻のスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定してください。

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

[トップ](#)

入力の削除 (DLTINPUT)

ONDEMANDでデータが正常にロードされた後で入力データを削除するかどうかを指定します。正常に実行されなかったADDRPTONDでは入力削除されません。

***NO** 入力データは保管されます。

***YES** 入力データは削除されます。

[トップ](#)

索引付けのみの実行 (IDXONLY)

ロードの索引付け部分のみを実行するかどうかを指定します。

***NO** 完全なロード・プロセスを実行します。

***YES** 索引付けプロセスのみを実行します。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

指定された報告書を対話式またはバッチ・ジョブで記憶したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

エラー・オプション (ERROPT)

ロード・プロセスが成功しなかった場合に行う処置を指定します。

***RMVRPT**

障害が起こった点までのロードされたすべてのデータを除去します。

***NORMVRPT**

データは除去されません。システム・ログを参照して、何が追加されたかを調べてください。

トップ

ADDRPTONDの例

例1:簡単な例

```
ADDRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) SPLF(CKSTMTPRTF)
```

このコマンドは、現行ジョブからのスプール・ファイル（名前CKSTMTPRTF）をONDEMAND共通サーバーのCHECKSTMTSというアプリケーション／アプリケーション・グループに保存するジョブをバッチに投入します。他のコマンド・パラメーターにはすべて省略時の値が使用され、これにはQUSRONDという省略時のインスタンス名が含まれます。

例2:より複雑な例

```
ADDRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) APP('CORPORATE ACCOUNT STATEMENTS')
          SPLF(CKSTMTPRTF) JOB(123456/OPERATOR/NIGHTBATCH)
          SPLNBR(*LAST) INSTANCE(ACCTING)
```

このコマンドは、夜間バッチ・ジョブ(NIGHTBATCH)からのスプール・ファイル（名前CKSTMTPRTF）をONDEMAND共通サーバーのCHECKSTMTSというアプリケーション・グループ内のアプリケーションCORPORATE ACCOUNT STATEMENTSに保存するジョブをバッチに投入します。データはACCTINGという名前のインスタンスに保存されます。

例3:より複雑な例

```
ADDRPTOND APPGRP(INVOICES) INPUT(*STMF)
          STMF('/PDFFILES/INV0214.PDF')
```

このコマンドはディレクトリー/PDFFILESのストリーム・ファイル（名前INV0214.PDF）をアプリケーション・グループINVOICES内のONDEMAND共通サーバー・アプリケーションINVOICESに保存するジョブをバッチに投入します。データはQUSRONDという名前の省略時のインスタンスに保存されます。

例4:より複雑な例

```
ADDRPTOND APPGRP(INVOICES) INPUT(*STMF)
          STMF('/PDFFILES/INV0214.PDF')
```

このコマンドはディレクトリー/PDFFILESのストリーム・ファイル（名前INV0214.PDF）をアプリケーション・グループINVOICES内のONDEMAND共通サーバー・アプリケーションINVOICESに保存するジョブをバッチに投入します。データは省略時のインスタンスQUSRONDに保存されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ADDRPTOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3C40

スプール・ファイル&4が見つからない。

OND0211

ADDRPTONDコマンドがエラーで終了した。

[トップ](#)

CM FOR ONDEMANDへの追加 (ADDVIRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CM FOR ONDEMANDへの追加 (ADDVIRDAR)コマンドは、既存のONDEMAND報告書索引を外部データ参照としてCONTENT MANAGER FOR ISERIESに追加します。CM FOR ONDEMANDへの追加 (ADDVIRDAR)コマンドは、CONTENT MANAGER FOR ISERIESインターフェース・ファイル(EKD0314)に索引を追加します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99, *HIGHEST	必須, 定位置 2
RPTDATE	報告書日付範囲	要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 開始日	文字値, *AVAIL, *CURRENT	
	要素 2: 終了日	文字値, *CURRENT	
CALLVI	CM FOR ISERIES プログラム呼出し	*YES, *NO	オプション, 定位置 4
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

報告書名 (REPORT)

CONTENT MANAGER FOR ISERIESに統合したい1つまたは複数の報告書の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

トップ

バージョン (VERSION)

統合する報告書のバージョンを指定してください。

***HIGHEST**

報告書定義の最高位に定義されたバージョンが使用されます。

01-99 使用する報告書のバージョン番号を指定します。

[トップ](#)

報告書日付範囲 (RPTDATE)

統合する必要がある1つまたは複数の報告書の最古および最新の日付を指定します。

要素1: 開始日

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

***AVAIL**

報告書で使用できる最も早い日付が使用されます。

***CURRENT**

今日の日付が使用されます。

要素2: 終了日

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

***CURRENT**

今日の日付が使用されます。

[トップ](#)

CM FOR ISERIES プログラム呼出し (CALLVI)

CONTENT MANAGER FOR ISERIESへの1つまたは複数の報告書の追加処理を完了するために、QVIXRFINXプログラムを呼び出したいかどうかを指定してください。

QVIXRFINXプログラムは、CONTENT MANAGER FOR ISERIESインターフェース・ファイルに入っているすべてのONDEMAND報告書索引をCONTENT MANAGER FOR ISERIESに追加します。

注: CONTENT MANAGERワークステーション・クライアントから検索可能なONDEMAND報告書の場合には、ONDEMAND報告書索引をCONTENT MANAGER FOR ISERIESへ追加するにはQVIXRFINXプログラムを呼び出さなければなりません。

***YES** *YESを指定した場合には、指定された1つまたは複数の報告書をCONTENT MANAGER FOR ISERIES に追加するためにQVIXRFINXプログラムが呼び出されます。

***NO** *NOを指定した場合には、指定された1つまたは複数のONDEMAND報告書はCONTENT MANAGER FOR ISERIESインターフェース・ファイルに追加されるだけです。すべてのONDEMAND報告書索引のCONTENT MANAGER FOR ISERIESへの追加を完了するには、後からQVIXRFINX プログラムの呼び出しが必要です。

バッチへの投入 (SBMJOB)

報告書対話式に統合するか、またはバッチ・ジョブで統合するかを指定してください。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

ADDVIRDARの例

例1: 簡単な例

```
ADDVIRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(*HIGHEST)
          RPTDATE(20020101 20020101)SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは、対話式に実行され、既存のONDEMANDスプール・ファイル保存報告書索引を、指定された特定日付のONDEMAND報告書定義（名前CHECKSTMTS）のCONTENT MANAGER（従来VISUALINFOまたはVIとして知られていた）に追加します。

例2: より複雑な例

```
ADDVIRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(*HIGHEST)
          RPTDATE(*AVAIL *CURRENT)
```

このコマンドは、既存のONDEMANDスプール・ファイル保存報告書索引を、ONDEMAND報告書定義（名前CHECKSTMTS)のCONTENT MANAGER（従来VISUALINFOまたはVIとして知られていた）に追加するジョブをバッチに投入します。スプール・ファイル索引レコードはすべての使用可能な日付でCONTENT MANAGERに追加されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

報告書定義のコピー (CPYDFNRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

報告書定義のコピー (CPYDFNRDAR)コマンドは、OPTIONパラメーターで指定されたコピー操作を実行します。OPTION = *EXPORTは、1つまたは複数のONDEMAND報告書定義レコードをRPTDFNFILEパラメーターで指定された報告書定義転送ファイルにコピーします。このファイルは、次に、別のRDARSまたはONDEMANDシステムに転送またはエクスポートすることができます。OPTION = *IMPORTの場合には、すべての報告書定義レコードが(RPTDFNFILEパラメーターに名前の指定された)報告書定義転送ファイルから標準ONDEMAND報告書定義ファイルにコピーされます。通常、この報告書定義転送ファイルは、別のRDARSまたはONDEMANDシステム上に作成されます。OPTION = *PRINTの場合には、RPTDFNFILEパラメーターに名前の指定された報告書定義ファイルから、報告書定義レコードの要約リストが印刷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*EXPORT, *IMPORT, *PRINT	必須, 定位置 1
RPTDFNFILE	報告書定義ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 報告書定義ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
VIEWFILE	論理ビュー・ファイル	名前, *NONE	オプション
FLRFLDFILE	フォルダー・フィールドFILE	名前, *NONE	オプション
REPORT	報告書名	総称名, 名前, *ALL	オプション
VERSION	バージョン	1-99	オプション
RPTGRP	報告書グループ	名前, *GRP	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

実行するエクスポート、インポート、または印刷機能を指定します。

これは必須パラメーターです。

*EXPORT

報告書定義レコードをONDEMAND報告書定義ファイルQARLRCTから、RPTDFNFILEパラメーターに名前の指定された報告書定義転送ファイルにコピーします。

*IMPORT

報告書定義レコードを、RPTDFNFILEパラメーターに指定された報告書定義転送ファイルから、ONDEMAND報告書定義ファイルQARLRCTにコピーします。

*PRINT

パラメーターRPTDFNFILEに名前の指定された報告書定義ファイル内の報告書定義レコードの要約リストを印刷します。

[トップ](#)

報告書定義ファイル (RPTDFNFILE)

オプション(OPTION)パラメーターに*EXPORTを指定した場合には、報告書定義レコードのコピー先ファイルを指定します。オプション(OPTION)パラメーターに*IMPORTまたは*PRINTを指定した場合には、報告書定義転送ファイルがこの機能の1次入力ファイルとなります。

これは必須パラメーターです。

注: 指定されたファイルが存在していない場合には、エクスポート処理によってファイルが作成されます。すでにファイルが存在している場合には、レコードは既存のファイルに追加されます。

修飾子1: 報告書定義ファイル

名前 報告書定義転送ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

論理ビュー・ファイル (VIEWFILE)

エクスポート時にQARLRAPPファイルからコピーされ、また、インポート処理時にQARLRAPPファイルにコピーされる論理ビュー・レコードのための追加の「転送」ファイルの名前を指定します。エクスポート時に論理ビュー・レコードが存在している場合には、このファイル名が必要です。それ以外の場合には、エクスポートまたはインポート時に*NONEを使用することができます。

論理ビュー転送ファイルは、報告書定義転送ファイルとして指定された (パラメーターRPTDFNFILE)ライブラリーの中になければなりません。

注: 指定されたファイルが存在していない場合には、エクスポート処理によってファイルが作成されます。すでにファイルが存在している場合には、レコードは既存のファイルに追加されます。

[トップ](#)

フォルダー・フィールドFILE (FLRFLDFILE)

エクスポート時にQARLRFFUファイルからコピーされ、また、インポート処理時にQARLRFFUファイルにコピーされるフォルダー・フィールド・レコードのための追加の「転送」ファイルの名前を指定します。エクスポート時にフォルダー・フィールド・レコードが存在している場合には、このファイル名が必要です。それ以外の場合には、エクスポートまたはインポート時に*NONEを使用することができます。

フォルダー・フィールド・ファイルは、報告書定義転送ファイルとして指定された (パラメーター RPTDFNFILE) 同じライブラリーの中になければなりません。

注: 指定されたファイルが存在していない場合には、エクスポート処理によってファイルが作成されます。すでにファイルが存在している場合には、レコードは既存のファイルに追加されます。

トップ

報告書名 (REPORT)

OPTION = *EXPORTの場合に報告書定義転送ファイルにコピーされる1つまたは複数の報告書定義レコードの名前を指定します。"AB*"のような総称値を使用して、"ABXXX...X"といった名前のすべての報告書定義をコピーすることができます。特殊値"*ALL"を使用して、既存のすべての報告書定義を報告書定義転送ファイルにコピーすることができます。VERSIONかRPTGRPを指定する場合には、このパラメーターをブランクのままにしておくことができます。また、REPORT, VERSION, およびRPTGRPの値を組み合わせて使用することができます。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

トップ

バージョン (VERSION)

OPTION = *EXPORTの場合に報告書定義転送ファイルにコピーされる報告書定義レコードのバージョン番号を指定します。使用できる値は、01-99またはブランクです。REPORTかRPTGRPのいずれかのパラメーターを指定した場合には、このパラメーターをブランクのままにしておくことができます。また、REPORT, VERSION, およびRPTGRPの値を組み合わせて使用することができます。

トップ

報告書グループ (RPTGRP)

OPTION = *EXPORTの場合に報告書定義転送ファイルにコピーされる報告書定義レコードの中で突き合わせる報告書グループ名の値を指定します。たとえば、"ARGROUP"を入力すると、グループARGROUP中のすべての報告書定義レコードがコピーされますが、ARGROUPという名前のそれ自体の報告書グループ定義はコピーされません。特定の報告書グループ定義をコピーするには、その報告書グループ名をREPORT値として (たとえば、REPORT = ARGROUP) 入力してください。すべての報告書グループ定義をコピーするには、"*GRP"をRPTGRP値として (たとえば、RPTGRP = *GRP) 入力してください。REPORTかVERSIONのいずれかのパラメーターを指定した場合には、このパラメーターをブランクのままにしておくことができます。また、REPORT, VERSION, およびRPTGRPの値を組み合わせて使用することができます。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

トップ

CPYDFNRDARの例

例1:簡単なエクスポートの例

```
CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT) RPTDFNFILE(MYLIB/MIGRDEFS)
          REPORT(CHECKSTMTS)
```

このコマンドによって、CHECKSTMTSというONDEMANDスプール・ファイル保存報告書定義のすべてのバージョンが、エクスポートされる情報を含むライブラリーMYLIBの報告書定義転送ファイル(MIGRDEFS)にエクスポートされることとなります。

例2:簡単なインポートの例

```
CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT) RPTDFNFILE(MYLIB/MIGRDEFS)
```

この例は、例1でエクスポートされた報告書定義をインポートするための、対応するインポート・コマンドを示します。通常、報告書定義転送ファイルは、ソース・システムからターゲット・システムへ移動されてから、ターゲット・システム上で上に示した例のインポート・コマンドが実行されます。

例3:より複雑なエクスポートの例

```
CPYDFNRDAR OPTION(*EXPORT) RPTDFNFILE(MYLIB/MIGRDEFS)
          VIEWFILE(MIGRLV)FLRFLDFILE(MIGRFF) REPORT(*ALL)
          VERSION(03)
```

このコマンドによって、すべてのONDEMANDスプール・ファイル保存報告書定義のバージョン03が、ライブラリーMYLIBの報告書定義転送ファイル(MIGRDEFS)にエクスポートされることとなります。またこれによって、論理ビュー定義報告書またはフォルダー・フィールド定義報告書がそれぞれファイルMIGRLVおよびMIGRFF（これらもMYLIBライブラリーにある）にエクスポートされることとなります。

例4:より複雑なインポートの例

```
CPYDFNRDAR OPTION(*IMPORT) RPTDFNFILE(MYLIB/MIGRDEFS)
          VIEWFILE(MIGRLV)FLRFLDFILE(MIGRFF)
```

この例は、例3でエクスポートされた報告書定義をインポートするための、対応するインポート・コマンドを示します。通常、報告書定義、論理ビュー定義、およびフォルダー・フィールド定義転送ファイルは、ソース・システムからターゲット・システムへ移動されてから、ターゲット・システム上で上に示した例のインポート・コマンドが実行されます。

トップ

エラー・メッセージ： CPYDFNRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR0331

プロファイル&3は使用できない。

RDR4001

REPORTパラメーターを指定できるのはOPTION(*EXPORT)の場合だけです。

RDR4002

VERSIONパラメーターを指定できるのは、OPTION(*EXPORT)の場合だけです。

RDR4003

RPTGRPパラメーターを指定できるのは、OPTION(*EXPORT)の場合だけです。

RDR4004

報告書定義転送ファイル(RPTDFNFILE)を指定しなければなりません。

RDR4005

OPTION = *EXPORTの時に、REPORT、VERSION、およびRPTGRPをすべてブランクにすることはできません。

RDR4006

REPORT値が"*ALL"の場合には、VERSIONとRPTGRPは両方ともブランクでなければなりません。

RDR4007

"*ALL"を指定できるのは、報告書名パラメーターだけです。

RDR4008

報告書定義転送ファイルの名前を文字"Q"で始めることはできません。

RDR4009

報告書定義転送ファイルのライブラリー名を指定しなければなりません。

RDR4010

論理ビュー転送ファイル名を指定しなければなりません。

RDR4011

論理ビュー転送ファイル名を"Q"で始めることはできません。

RDR4012

グループ名の値に総称文字"*"を含めることはできません。

RDR4013

グループ名も指定する場合には、報告書名の値に総称文字"*"を含めなければなりません。

RDR4014

フォルダー・フィールド転送ファイル名を指定しなければなりません。

RDR4015

フォルダー・フィールド転送ファイル名を"Q"で始めることはできません。

[トップ](#)

光ディスク・ファイルのコピー (CPYOFRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファイルのコピー (CPYOFRDAR)コマンドは、光ディスク・ファイルにデータベース・ファイル・メンバーをコピーします。コピー操作は、物理または論理データベース・メンバーから実行することができます。データは物理または論理光ディスク・ファイルにコピーすることができます。ファイル間のフィールドのマッピングは、コピー操作では実行されません。したがって、両方のファイルのデータは同じフィールド・レイアウトおよびタイプでなければなりません。レコードは常に、光ディスク・ファイルの既存のレコードに追加されます。

注: このコマンドではファイル一時変更はサポートされていません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	開始データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 開始データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	終了光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 終了光ディスク・ファイル	名前, *FROMFILE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	開始DBファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

開始データベース・ファイル (FROMFILE)

レコードをコピーする元 (ソースのデータベース・ファイル) のデータベース・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 開始データベース・ファイル

名前 ソースのデータベース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソースのデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

終了光ディスク・ファイル (TOFILE)

レコードをコピーする先（ターゲットの光ディスク・ファイル）の光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子1: 終了光ディスク・ファイル

***FROMFILE**

受動側の光ディスク・ファイルの名前は、FROMFILEパラメーターに指定された起動側のデータベース・ファイルの名前と同じです。

名前 ターゲットの光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ターゲットの光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

開始DBファイル・メンバー (FROMMBR)

コピーしているコピー元ファイルのデータベース・メンバーを指定します。

***FIRST**

データベースのFROMファイルの最初のメンバーがコピーされます。

メンバー名

コピーするデータベースのFROMファイル・メンバーを指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CPYOFRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR5415

&2のファイル&1メンバー&3が&5の光ディスク・ファイル&4にコピーされなかった。

[トップ](#)

論理光ディスク・ファイルの作成 (CRTLOFRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

論理光ディスク・ファイルの作成 (CRTLOFRDAR)コマンドは、物理光ディスク・ファイルに論理光ディスク・ファイルを作成します。これによって、物理光ディスク・ファイルに異なった順序のレコードを定義するか、物理光ディスク・ファイルの一部またはすべてのフィールドを選択するか、あるいは物理ファイルのフィールドの属性を変更することができます。この論理ファイルの記述は、この論理光ディスク・ファイルのモデル・ファイルから取り出されたものです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	論理光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 論理光ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PRPAUT	普及権限	*YES , *NO	オプション

[トップ](#)

論理光ディスク・ファイル (FILE)

作成する論理光ディスク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 論理光ディスク・ファイル

名前 作成される論理光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 論理光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

普及権限 (PRPAUT)

モデル・ファイルからの権限を、新しく作成される論理光ディスク・ファイルに伝搬する必要があるかどうかを指定します。

***YES** モデル・ファイルと関連した権限は論理光ディスク・ファイルに伝搬されます。

***NO** 権限は論理光ディスク・ファイルに伝搬されません。共通認可は*EXCLUDEであり、オブジェクトは、このコマンドを出したユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルによって所有されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTLOFRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR5404

光ディスク・ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

物理光ディスク・ファイルの作成 (CRTPOFRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理光ディスク・ファイルの作成 (CRTPOFRDAR)コマンドは、物理光ディスク・ファイルを作成します。
この物理光ディスク・ファイルの記述は、モデル・ファイルから取り出されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理光ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
STGGRP	記憶グループ	名前	オプション
COMPRESS	圧縮	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PRPAUT	普及権限	<u>*YES</u> , *NO	オプション
MEDIA	媒体タイプ	<u>*OPTICAL</u> , *DISK	オプション

[トップ](#)

物理光ディスク・ファイル (FILE)

作成する物理光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子1: 物理光ディスク・ファイル

名前 作成される物理光ディスク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

物理光ディスク・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 物理光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

記憶グループ (STGGRP)

光ディスク・ボリュームの検索に使用する光ディスク記憶グループの名前を指定し、ここに物理ファイルが入れられます。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

名前 使用する記憶グループの名前を指定します。

[トップ](#)

圧縮 (COMPRESS)

データを光媒体に書き込む前に、そのデータを圧縮するかどうかを指定します。

***YES** データを書き込む前に、そのデータが圧縮されます。

***NO** 圧縮は使用されません。データは、書き込みAPIに渡される通りに書き込まれます。

注: 短い長さのレコードをもつファイルの処理では、これを選択するのが便利です。データによっては、実際に圧縮した結果が、圧縮されない元のレコードよりも大きいレコードになることもあります。テスト中にDSPOFDRDARコマンドを使用して、ファイルの最大レコード長を検索して、圧縮の利点があるかどうかを判別するのに役立てることができます。

[トップ](#)

普及権限 (PRPAUT)

モデル・ファイルからの権限を、新しく作成される物理光ディスク・ファイルに伝搬する必要があるかどうかを指定します。

***YES** モデル・ファイルと関連した権限は物理光ディスク・ファイルに伝搬されます。

***NO** 権限は物理光ディスク・ファイルに伝搬されません。共通認可は*EXCLUDEであり、オブジェクトは、このコマンドを出したユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルによって所有されます。

[トップ](#)

媒体タイプ (MEDIA)

このファイルを入れる必要がある媒体のタイプを指定します。

***OPTICAL**

ファイルは光媒体に入れなければなりません。

***DISK** ファイルはディスク媒体に入れなければなりません。

注: ユーザー適用業務の開発およびテスト中には、このオプションを使用したい場合があります。ONDEMANDレコード保管APIにも同じパラメーターがあり、ここで指定した媒体のタイプとは無関係です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CRTPOFRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR5404

光ディスク・ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

光ディスク・ファイルの削除 (DLTOFRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファイルの削除 (DLTOFRDAR)コマンドは、指定された光ディスク・ファイルを削除します。これは論理または物理の光ディスク・ファイルとすることができます。基礎となっている物理光ディスク・ファイルを削除する前に、すべての論理光ディスク・ファイルを削除しなければなりません。光ディスク・ファイルを削除することは、指定された光ディスク・ファイルの記述およびアクセス・パスを除去することになります。光ディスク・ファイルが物理の光ディスク・ファイルである場合には、そのデータもシステムから除去されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 光ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

光ディスク・ファイル (FILE)

削除する光ディスク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 光ディスク・ファイル

名前 削除される光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DLTOFRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR5416

光ディスク・ファイル&1がライブラリー&2から削除されなかった。

[トップ](#)

ONDEMANDの報告書の削除 (DLTRPTRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの報告書の削除 (DLTRPTRDAR)コマンドは、指定された報告書を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99	必須, 定位置 2
RPTDATE	報告書日付	文字値	必須, 定位置 3
RPTSEQ	報告書順序番号	AAA-999	必須, 定位置 4
CLEANUP	部分報告書の除去	*NO, *YES	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QRDARS400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

削除する必要がある報告書のバージョンを指定します。この値は01 - 99の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書日付 (RPTDATE)

削除する報告書の報告書日付を指定します。

日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

報告書の日付は、STRCDSRDARからのQPRLRCDS印刷装置ファイル内で、あるいは指定の報告書の報告書日付を示すONDEMAND画面で調べることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書順序番号 (RPTSEQ)

削除する報告書の報告書順序番号を指定します。これがANystore 報告書でなければ、この値は001-999の範囲でなければなりません。ANystore報告書の順序番号はAAA-999にすることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

部分報告書の除去 (CLEANUP)

部分報告書を削除する必要があるかどうかを指定します。

***NO** 部分報告書は削除されません。

***YES** 部分報告書が削除されます。

注: 報告書のある部分が脱落している場合には、その報告書は部分報告書です。報告書を削除しようとして、正常に実行されなかった場合には、ここで*YESを指定して、見つかった報告書の部分を削除することができます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

特定の報告書に対話式にまたはバッチ・ジョブで削除したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

DLTRPTRDARの例

例1: 簡単な例

```
DLTRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
RPTSEQ(001)
```

このコマンドは、指定された日付のバージョン01/順序番号001のONDEMANDスプール・ファイル保存報告書(CHECKSTMTS)を削除するジョブをバッチに投入します。

例2: より複雑な例

```
DLTRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
RPTSEQ(001)CLEANUP(*YES) SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは、対話式に実行され、指定された日付のバージョン01/順序番号001のONDEMANDスプール・ファイル保存報告書(CHECKSTMTS)のすべてまたは一部を削除します。CLEANUP(*YES)パラメーターは、失敗した前の保存の間に作成された可能性のある、保存済みスプール・ファイルの部分の削除するのに使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DLTRPTRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR0153

報告書&1/&2/&3.&4でエラーが検出された。この報告書は削除されませんでした。

[トップ](#)

光ディスク・ファイル記述表示 (DSPOFDRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファイル記述表示 (DSPOFDRDAR)コマンドは、光ディスク・ファイルに関する情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 光ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL, *VOLUMES, *FIELDS, *KEYS, *SERVICE	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

光ディスク・ファイル (FILE)

情報を表示したい光ディスク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 光ディスク・ファイル

名前 その属性を表示したい光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

光ディスク・ファイルに関して提供される詳細の程度を指定します。

***BASIC**

画面またはリストには、光ディスク・ファイルの名前および基本情報が入っています。

***FULL** *BASICパラメーターによって提供される情報の他に、すべてのキーおよびフィールドのリストも提供されます。

***VOLUMES**

画面またはリストには、この光ディスク・ファイルが入っているすべてのボリューム（光ディスク）のリストが入っています。

***FIELDS**

画面またはリストには、この光ディスク・ファイルのすべてのフィールドおよびその属性のリストが入っています。

***KEYS**

画面またはリストには、この光ディスク・ファイルのすべてのキー・フィールドおよびその属性のリストが入っています。

***SERVICE**

光ディスク・ファイルに関するすべての情報が提供されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力を送信する宛先を指定します。

*
_ 出力は表示されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPOFDRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR5402

&2の光ディスク・ファイル&1の記述を表示することができない。

[トップ](#)

光ディスク・ファイルの表示 (DSPOFRDAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファイルの表示 (DSPOFRDAR)コマンドは、光ディスク・ファイルの内容を表示します。ファイルは物理または論理光ディスク・ファイルとすることができます。データはファイルのアクセス・パスに指定された順序で表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	光ディスク・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 光ディスク・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NBRRCDS	レコード数	10 進数, 100, *ALL	オプション
FROMRCD	開始レコード	10 進数, 1, *END	オプション

[トップ](#)

光ディスク・ファイル (FILE)

内容を表示するその光ディスク・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 光ディスク・ファイル

名前 表示される光ディスク・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 光ディスク・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

レコード数 (NBRRCD)

表示したいレコードのレコードの最大数を指定します。光ディスク・ファイルには膨大なレコードが入っているので、時間を節約するためにレコード数を制限したい場合があります。すべてのレコードは表示の前に、一時データベース・ファイルにコピーされます。

100 光ディスク・ファイルの最初の100個のレコードが一時データベース・ファイルにコピーされます。

***ALL** 光ディスク・ファイルのすべてのレコードが一時データベース・ファイルにコピーされます。

レコード数

一時データベース・ファイルにコピーするレコード数を指定します。有効な値の範囲は1 - 9999999999です。

[トップ](#)

開始レコード (FROMRCD)

初期画面の最上部の行に表示される光ディスク・ファイル中のレコードを指定します。この値は、1からレコード数 (NBRRCD)パラメーターに指定された値の間になければなりません。前ページおよび次ページ・キーを使用して、NBRRCDパラメーターによって指定されたレコードの範囲内のその他のレコードを表示することができます。

1 光ディスク・ファイル中のレコード番号1が表示されます。

***END** 最後のレコード (NBRRCDパラメーターによる指定) が表示されます。*ENDの値では、光ディスク・ファイル中の最後のレコードが画面の最下部に現れるように、最後の完全なページが表示されます。

レコード番号

初期画面の最上部の行に表示するレコードの番号を指定してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPOFRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR5402

&2の光ディスク・ファイル&1の記述を表示することができない。

RDR5405

&2の光ディスク・ファイル&1の内容を表示することができない。

[トップ](#)

ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONOND)コマンドによって、出力待ち行列またはディレクトリーの現在活動中のモニターを終了することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*OUTQ , *DIR	オプション
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
DIR	ディレクトリー	パス名	オプション
NBRMON	終了するモニターの数	*ALL , *ONE	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

終了するモニターのタイプを指定します。

***OUTQ**

出力待ち行列モニター

***DIR** ディレクトリー・モニター

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

モニターが活動中で、終了することになる出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。TYPE(*OUTQ)を指定した場合には、値を指定しなければなりません。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 モニターを終了することになる出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

モニターが活動中で、終了することになるディレクトリーの名前を指定します。TYPE(*DIR)を指定した場合には、値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

終了するモニターの数 (NBRMON)

終了するモニターの数指定します。

***ALL** パラメーターOUTQに指定された出力待ち行列またはパラメーターDIRに指定されたディレクトリーのすべての活動モニターが終了されます。

***ONE** 1つのモニターを終了します。

[トップ](#)

ENDMONONDの例

例1:簡単な例

```
ENDMONOND OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
```

このコマンドは、指定した出力待ち行列のONDEMAND共通サーバー出力待ち行列モニターを終了する要求を出します。

例2:より複雑な例

```
ENDMONOND TYPE(*DIR) DIR('/MYDIR')
```

このコマンドは、指定したディレクトリーのONDEMAND共通サーバー・ディレクトリー・モニターを終了する要求を出します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDMONOND

*ESCAPE メッセージ

RDR0189

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

RDR0190

ライブラリー&2の出力待ち行列&1がモニターされていないか、あるいはモニターがすでに終了している。

RDR0324

ライブラリー&2の出力待ち行列&1のモニターはすでに取り消されている。

CPF1002

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF1040

最大数のオブジェクトがシステムに割り振られた。

CPF1085

オブジェクトは割り振られなかった。

[トップ](#)

ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのモニターの終了 (ENDMONRDAR)コマンドによって、出力待ち行列で現在活動中のモニターを終了することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NBRMON	終了するモニターの数	*ONE, *ALL	オプション

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

モニターが活動中で、終了することになる出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 モニターを終了することになる出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

終了するモニターの数 (NBRMON)

終了するモニターの数指定します。

***ONE** 1つのモニターを終了します。

***ALL** パラメーターOUTQに指定された出力待ち行列のすべての活動モニターが終了されます。

[トップ](#)

ENDMONRDARの例

例1:簡単な例

```
ENDMONRDAR OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
```

このコマンドは、指定した出力待ち行列のONDEMANDスプール・ファイル保存出力待ち行列モニターを終了する要求を出します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDMONRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR0189

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

RDR0190

ライブラリー&2の出力待ち行列&1がモニターされていないか、あるいはモニターがすでに終了している。

CPF1002

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF1040

最大数のオブジェクトがシステムに割り振られた。

CPF1085

オブジェクトは割り振られなかった。

[トップ](#)

ONDEMANDのキーの検索 (FNDKEYOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのキーの検索 (FNDKEYOND)コマンドによって、FOLDERパラメーターで指定されたフォルダーを通して使用可能な特定の文書を検索することができます。検索の結果を表示するためにONDEMANDクライアントが起動されます。入力されたキー・フィールドは、フォルダー内に存在しなければなりません。このコマンドは、APIとしてONDEMANDクライアントを「GREEN SCREEN」アプリケーションから起動することを目的としています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FOLDER	フォルダー	文字値	必須, 定位置 1
LGLREL	論理関係	*AND, *OR	オプション, 定位置 2
KEYFLD	検索引き数	値 (最大 10 回の繰り返し); 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: キー・フィールド	文字値	
	要素 2: 演算子	*EQ, *NE, *LT, *GT, *GE, *BETWEEN, *NOTBETWEEN, *IN, *NOTIN, *LIKE, *NOTLIKE	
	要素 3: 値1	文字値	
	要素 4: 値2	文字値	

[トップ](#)

フォルダー (FOLDER)

検索するフォルダーの名前を指定してください。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、コマンドが実行されているサーバーの省略時のインスタンスのみに有効です。

[トップ](#)

論理関係 (LGLREL)

別のキー・フィールドとの論理関係を指定してください。

***AND** 複数のキーがAND連結されます。

***OR** 複数のキーがOR連結されます。

[トップ](#)

検索引き数 (KEYFLD)

検索する1つまたは複数のキー・フィールド、演算子、および値を指定します。

注: このパラメーターには複数個の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数個の値を入力するために追加の入力フィールドが必要である場合には、"値の続きは+"の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

キー・フィールド

この検索対象のキー・フィールド名を指定してください。有効なキー・フィールドを指定しなければなりません。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

要素1: 演算子

***EQ** 値1のデータを使用したEQUAL検索。

***NE** 値1のデータを使用したNOT EQUAL検索。

***LT** 値1のデータを使用したLESS THAN検索。

***LE** 値1のデータを使用したLESS THAN OR EQUAL検索。

***GT** 値1のデータを使用したGREATER THAN検索。

***GE** 値1のデータを使用したGREATER THAN OR EQUAL検索。

***BETWEEN**

値1と値2のデータを使用したBETWEEN検索。

***NOTBETWEEN**

値1と値2のデータを使用したNOT BETWEEN検索。

***IN** 値1のデータを使用したIN検索。

***NOTIN**

値1のデータを使用したNOT IN検索。

***LIKE** 値1のデータを使用したLIKE検索。

***NOTLIKE**

値1のデータを使用したNOT LIKE検索。

要素2: 値1

検索対象のデータ値を指定してください。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

要素3: 値2

BETWEENまたはNOT BETWEEN検索の終了値であるデータ値を指定してください。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

FNDKEYONDの例

例1: 簡単な例

```
FNDKEYOND FOLDER(CHECKSTMTS)
```

```
KEYFLD(('アカウント番号' *EQ '251000022')
```

このコマンドによって、CHECKSTMTSフォルダーを介して使用可能な特定のONDEMAND共通サーバー文書を検索することができます。ワークステーション上でONDEMANDクライアント起動環境がセットアップされていて、ユーザーがクライアント「LISTENER」プログラムにログオンしている場合には、ONDEMANDクライアントがこの検索結果を表示します。入力するキー・フィールド名（アカウント番号）は、ONDEMAND共通サーバー・フォルダー定義で定義する必要があります。（このコマンドは、APIとしてONDEMANDクライアントを「GREEN SCREEN」アプリケーションから起動することを目的としています。）

例2: より複雑な例

```
FNDKEYOND FOLDER(CHECKSTMTS)
```

```
KEYFLD(('アカウント番号' *EQ '251000022')
```

```
('文書日付' *BETWEEN '06/16/88' '08/16/02'))
```

このコマンドは例1に似ていますが、複数のキー・フィールド／値と*BETWEEN演算子の使用法を示しています。このコマンドでは、複数のキー・フィールドや値を指定することができ、各種の演算子を使用できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: FNDKEYOND

*ESCAPE メッセージ

RDR2882

クライアント・ランチAPIプログラムQRLRLCVがエラー・コード&1で終了しました。

[トップ](#)

ONDEMANDを使用したキー検索 (FNDKEYRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDを使用したキー検索 (FNDKEYRDAR)コマンドによって、REPORTパラメーターに指定された報告書に記憶された特定の文書またはセグメントを検索することができます。複数の文書またはセグメントが検索を満たしている場合には、リストが表示されるので、表示する必要がある文書またはセグメントを選択することができます。日付の範囲を指定するか、あるいは複数のキー・フィールドを入力することによって、検索する文書またはセグメントの範囲を制限することができます。このコマンドの少なくとも1つのキー・フィールドに値を指定しなければなりません。これは、ONDEMANDのキー検索機能のAPIとするためです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
RPTKEY1	キー 1 の値	文字値	オプション
RPTKEY2	キー 2 の値	文字値	オプション
RPTKEY3	キー 3 の値	文字値	オプション
RPTKEY4	キー 4 の値	文字値	オプション
RPTKEY5	キー 5 の値	文字値	オプション
GROUP	グループ検索	<u>*NO</u> , *YES	オプション
RPTDATE	報告書日付範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*CURRENT</u>	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *FAX	オプション

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

検索する報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

キー 1 の値 (RPTKEY1)

検索する報告書のキー 1 を指定します。

[トップ](#)

キー 2 の値 (RPTKEY2)

検索する報告書のキー 2 を指定します。

[トップ](#)

キー 3 の値 (RPTKEY3)

検索する報告書のキー 3 を指定します。

[トップ](#)

キー 4 の値 (RPTKEY4)

検索する報告書のキー 4 を指定します。

[トップ](#)

キー 5 の値 (RPTKEY5)

検索する報告書のキー 5 を指定します。

[トップ](#)

グループ検索 (GROUP)

検索がこの報告書に対してだけ行なうか、あるいは報告書グループのすべての報告書に対して行なうかを指定します。

***NO** 検索は、REPORTパラメーターに指定された報告書に対してだけ行なわれます。

***YES** 検索は、報告書グループのすべての報告書に対して行なわれます。使用される報告書グループは、REPORTパラメーターに指定された報告書の報告書グループです。

[トップ](#)

報告書日付範囲 (RPTDATE)

検索する必要がある報告書の最も早い日付および最も遅い日付を指定します。

要素1: 開始日

***AVAIL**

報告書で使用できる最も早い日付が使用されます。

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

要素2: 終了日

***CURRENT**

今日の日付が使用されます。

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

報告書を検出した時に、その報告書に対して実行する内容を指定します。

***** 検出された文書またはセグメントは、このコマンドを実行した画面に表示されます。

***PRINT**

文書またはセグメントが印刷されます。1つの文書またはセグメントが検出されない場合には、選択リストが表示されます。

***FAX** 文書またはセグメントがファックスで送られます。1つの文書またはセグメントが検出されない場合には、選択リストが表示されます。

[トップ](#)

FNDKEYRDARの例

例1:簡単な例

```
FNDKEYRDAR REPORT(CHECKSTMTS) RPTKEY1(251000022)
```

このコマンドによって、報告書定義名CHECKSTMTSを使用して保存された特定のONDEMANDスプール・ファイル保存文書を検索することができます。入力するキー値は、ONDEMANDスプール・ファイル保存報告書定義中のキー（キー1-5）と対応していなければなりません。

例2:より複雑な例

```
FNDKEYRDAR REPORT(CHECKSTMTS) RPTKEY1(251000022)
          RPTKEY3(KATIE*) RPTDATE(19880616 20020816)
          OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは例1に似ていますが、複数のキー・フィールド／値と*PRINTオプションの使用法を示しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： FNDKEYRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR0001

報告書定義が見つかりません。

RDR0006

このキーでは文書が見つからない。

RDR0007

開始日と終了日を入力する必要がある。

RDR0010

ページ番号は999999以下でなければならない。

RDR0011

ページ番号は数字でなければならない。

RDR0013

セグメント番号は999999以下でなければならない。

RDR0053

アクセスが拒絶された。この報告書へのアクセスは認可されていません。

RDR0054

重大なディレクトリー問題。

RDR0055

報告書へのアクセスが拒絶された。システム・ディレクトリーに登録されていません。

RDR0104

開始日が正しくない。

RDR0105

終了日が正しくない。

RDR0124

このキー組み合わせで複数のキー検索を実行することはできない。

RDR0183

このキー値をもつ文書は認可されていない。

RDR9999

ONDEMAND用に使用できる他のライセンスはありません。

[トップ](#)

ONDEMANDを使用した報告書検索 (FNDRPTRDAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDを使用した報告書検索 (FNDRPTRDAR)コマンドはONDEMANDロゴ画面を表示し、報告書の検索のために報告書の名前および報告書日付の範囲を指定できるオプションがあります。このコマンドのRPTDATEパラメーターに値を入力して、ユーザーの日付の範囲を任意に指定することができます。このコマンドは、報告書検索機能のAPIとするためのものです。これは、報告書選択画面を表示するために、ユーザー定義メニューで使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注	
REPORT	報告書名	総称名, 名前, <u>*SELECT</u>	オプションナル, 位置 1	
RPTDATE	報告書日付範囲	要素リスト	オプションナル	
	要素 1: 開始日	文字値, <u>*AVAIL</u>		
	要素 2: 終了日	文字値, <u>*CURRENT</u>		
DSPRPTSLT	報告書選択項目の表示	<u>*YES</u> , *NO	オプションナル	

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

検索したい報告書または報告書グループの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

*SELECT

選択を行なうためにONDEMANDロゴ画面が表示されます。

総称 * 報告書名

検索する報告書の総称名を指定してください。

報告書名

検索する報告書の名前を指定してください。

報告書グループ

報告書グループの名前を指定してください。これにより、グループの一部であるすべての報告書が検索されます。

[トップ](#)

報告書日付範囲 (RPTDATE)

検索する必要がある報告書の最も早い日付および最も遅い日付を指定します。

要素1: 開始日

***AVAIL**

報告書で使用できる最も早い日付が使用されます。

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

要素2: 終了日

***CURRENT**

今日の日付が使用されます。

日付 日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

[トップ](#)

***YES** 必要な場合には、報告書検索および報告書選択画面が表示されます。

***NO** 報告書選択画面は表示されずに、キー項目のための文書検索画面が表示されます。報告書名および日付の範囲には、REPORTパラメーターからの報告書名とRPTDATEパラメーターからの日付の範囲が使用されます。REPORTパラメーターに報告書名が指定されている場合にのみ、使用することができます。

[トップ](#)

FNDRPTRDARの例

例1: 簡単な例

```
FNDRPTRDAR
```

このコマンドをパラメーターなしで出すと、ONDEMANDスプール・ファイル保存メイン「GREEN SCREEN」検索パネルが表示され、保存済み文書の検索を開始できます。

例2: より複雑な例

```
FNDRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) RPTDATE(20020101 20021231)
          DSPRPTSLT(*NO)
```

このコマンドは多くのONDEMANDスプール・ファイル保存事前検索画面をバイパスします。このコマンドによって、ユーザーは、指定日付範囲内の日付をもった特定報告書（名前CHECKSTMTS）の検索用キー値を入力できるパネルに直接進むことができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: FNDRPTRDAR

なし

[トップ](#)

ONDEMANDからの報告書の印刷 (PRTRPTOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDからの報告書の印刷 (PRTRPTOND)コマンドは、指定された報告書全体を印刷します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRP	アプリケーション・グループ	文字値	必須, 定位置 1
RPTID	報告書ID	文字値	必須, 定位置 2
PRINTER	印刷装置	名前, *OUTQ	必須, 定位置 3
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INSTANCE	インスタンス	文字値, QUSROND	オプション
COPIES	コピー部数	1-255, 1	オプション
PAGERANGE	印刷するページ範囲	単一値: *ENDPAGE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, 1	
	要素 2: 終了ページ	整数, *END	
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS, *LIBL, *CURLIB	

トップ

アプリケーション・グループ (APPGRP)

印刷する報告書が入っているアプリケーション・グループの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、パラメーターINSTANCEがQUSRONDでない場合には、有効でないことがあります。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

報告書ID (RPTID)

印刷する報告書の報告書IDを指定します。

報告書IDは"1220-1-0-8FAA-9939-9345"の形式になっています。この場合に、"1220"は内部アプリケーション・グループID、"1"は1次記憶域ノード、"0"は2次記憶域ノード、"8FAA"はカウンター、"9339"は報告書ファイルの最初の（内部）日付、"9345"は報告書ファイルの最後の（内部）日付です。報告書IDはロードIDとしても知られています。

注: 報告書IDはログ・ファイルで見つけることができます。

これは必須パラメーターです。

トップ

印刷装置 (PRINTER)

報告書を印刷する場所を指定します。

*OUTQ

報告書はOUTQパラメーターに指定された出力待ち行列にスプールされます。

装置名 報告書の印刷に使用する装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

スプールされる報告書を受け取るために使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。この出力待ち行列はONDEMANDインスタンス内で印刷装置として定義する必要があります。

単一値

***JOB** このジョブと対応した出力待ち行列がスプールされた報告書を受け取ります。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

トップ

コピー部数 (COPIES)

印刷するコピー枚数を指定します。

トップ

印刷するページ範囲 (PAGERANGE)

印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 報告書の1ページ目から開始します。

***ENDPAGE**

最後のページだけを印刷します。

開始ページ番号

印刷する開始ページを指定します。

要素2: 終了ページ

***END** 最後のページが印刷されるまで、印刷続行されます。

終了ページ番号

印刷する最後のページを指定します。

トップ

バッチへの投入 (SBMJOB)

この報告書を現行ジョブでまたはバッチ・ジョブで印刷したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

PRTRPTONDの例

例1:簡単な例

```
PRTRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) RPTID('1220-1-0-8FAA-9939-9345')
          PRINTER(*OUTQ) OUTQ(QGPL/PRT01)
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバー・アプリケーション・グループ(CHECKSTMTS)から、示されたロードID（報告書IDとしても知られている）をもつスプール・ファイルを再印刷するジョブをバッチに投入します。そのコマンドには、インスタンス名が指定されていないので、保存済みデータがQUSRONDインスタンス内に保管されていることを前提にしています。再印刷出力はPRT01出力待ち行列に送られます。

例2:より複雑な例

```
PRTRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) RPTID('1220-1-0-8FAA-9939-9345')
          PRINTER(*OUTQ) OUTQ(QGPL/PRT01) INSTANCE(ACCTING)
          SBJJOB(*NO)
```

このコマンドは例1に似ていますが，対話式に実行され，インスタンス名が指定されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTRPTOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0251

PRTRPTONDはエラーで終了しました。この報告書は印刷されませんでした。

[トップ](#)

ONDEMANDの報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの報告書の印刷 (PRTRPTRDAR)コマンドは、指定された報告書をそのまま印刷します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99	必須, 定位置 2
RPTDATE	報告書日付	文字値	必須, 定位置 3
RPTSEQ	報告書順序番号	1-999	必須, 定位置 4
PRINTER	印刷装置	名前, *OUTQ	必須, 定位置 5
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
COPIES	コピー部数	1-255, <u>1</u>	オプション
PAGERANGE	印刷するページ範囲	単一値: *ENDPAGE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, <u>1</u>	
	要素 2: 終了ページ	整数, *END	
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

印刷する報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

印刷する必要がある報告書のバージョンを指定します。この値は01 - 99の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書日付 (RPTDATE)

報告書の日付は、STRCDSRDARからのQPRLRCDS印刷装置ファイル内で、あるいは指定の報告書の報告書日付を示すONDEMAND画面で調べることができます。

日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特許文字も使用しないでください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

順序番号 (RPTSEQ)

印刷する報告書の報告書順序番号を指定します。この値は001-999の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

印刷装置 (PRINTER)

報告書を印刷する場所を指定します。

***OUTQ**

報告書はOUTQパラメーターに指定された出力待ち行列にスプールされます。

装置名 報告書の印刷に使用する装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

スプールされる報告書を受け取るために使用される出力待ち行列の修飾名を指定します。

修飾子1: 出力待ち行列

***JOB** このジョブと対応した出力待ち行列がスプールされた報告書を受け取ります。

出力待ち行列名

使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

コピー部数 (COPIES)

印刷またはファクシミリするコピーの数を指定します。

[トップ](#)

印刷するページ範囲 (PAGERANGE)

印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 報告書の1ページ目から開始します。

***ENDPAGE**

最後のページだけを印刷します。

開始ページ番号

印刷する開始ページを指定します。

要素2: 終了ページ

***END** 最後のページが印刷されるまで、印刷続行されます。

終了ページ番号

印刷する最後のページを指定します。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

この報告書を現行ジョブでまたはバッチ・ジョブで印刷したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

PRTRPTRDARの例

例1:簡単な例

```
PRTRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) PRINTER(*OUTQ) OUTQ(QGPL/PRT01)
```

このコマンドは、ONDEMANDスプール・ファイル保存報告書定義(CHECKSTMTS)から、示されたバージョン、日付、および順序番号をもつスプール・ファイルを再印刷するジョブをバッチに投入します。再印刷出力はPRT01出力待ち行列に送られます。指定する出力待ち行列がONDEMANDインスタンス内で印刷装置として定義されている必要があることに注意してください。

例2:より複雑な例

```
PRTRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) PRINTER(*OUTQ) OUTQ(QGPL/PRT01)
          SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは例1に似ていますが、対話式に実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTRPTRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR0168

報告書&1/&2/&3.&4でエラーが検出された。この報告書は印刷されませんでした。

[トップ](#)

ONDEMANDのテキストの印刷 (PRTTXTOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのテキストの印刷 (PRTTXTOND)コマンドによって、テキストのみの形式でスプール・ファイルの全部または一部を印刷することができます。これによって、報告書管理担当者は、索引付けされた時にADDRPTONDに対して報告書がどのようになるかを調べることができます。この出力を使用して、管理担当者は報告書にどのように索引付けするかを決定することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SPLF	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成	時刻, *ONLY, *LAST	
PAGERANGE	印刷するページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, 1	
	要素 2: 終了ページ	整数, 10, *END	
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBDD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS, *LIBL, *CURLIB	
STMF	ストリーム・ファイル	パス名, *NONE	オプション
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*NO, *YES	オプション

トップ

スプール・ファイル (SPLF)

ONDEMANDへの入力として使用するスプール・ファイルの名前を指定します。これは、ファイルの作成時にユーザー・プログラムによって指定されたファイル名であるか、あるいはこのファイルの作成時に使用された装置ファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

* このコマンドを出したジョブは、スプール・ファイルを作成したジョブです。

ジョブ名

使用するジョブの名前を指定します。ジョブ修飾子を指定しない場合には、システム上に現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合には、すべての重複した修飾ジョブ名が含まれるメッセージのリストが表示されます。

ユーザー名

ジョブを実行したユーザー・プロファイル名を指定します。

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

どのジョブのスプール・ファイルを印刷するかを、番号によって指定します。

*ONLY

指定されたファイル名をもつスプール・ファイルは、このジョブでは1つだけです。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名で最高位の番号のスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、ジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイルの作成日時パラメーターがスプール・ファイル番号より優先される場合には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

使用するよう指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時のスプール・ファイルが1つあります。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時で現行システム上に作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用されるスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、スプール・ファイルの作成日時パラメーターがジョブ・システム名より優先される場合には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最新の作成日時のスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定してください。

可能な作成時刻値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最新の作成時刻のスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定してください。

[トップ](#)

印刷するページ範囲 (PAGERANGE)

印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 報告書の1ページ目から開始します。

開始ページ番号

印刷する開始ページを指定します。

要素2: 終了ページ

10 10ページ目で印刷を終了します。

***END** 最後のページが印刷されるまで、印刷続行されます。

終了ページ番号

印刷する最後のページを指定します。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

指定されたデータを対話式でまたはバッチ・ジョブで印刷したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル (STMF)

出力データが入っているストリーム・ファイルへのパスを指定します。

***NONE**

出力はスプール・ファイルQPRLMTXTに送られます。

パス名 出力データが入っているストリーム・ファイルへのパスを指定します。

[トップ](#)

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

指定された名前のストリーム・ファイルがすでに存在する場合に、出力操作でストリーム・ファイルへのレコードのコピーを置き換えるかまたは失敗させるかを指定します。ストリーム・ファイルが存在しなければ作成されます。

***NO** レコードは出力されず、エラー条件が作成されます。

***YES** レコードは、既存のストリーム・ファイルのレコードと置き換えられます。

[トップ](#)

PRTTXTONDの例

例1:簡単な例

```
PRTTXTOND SPLF(CKSTMPRTF)
```

このコマンドは、現行ジョブで生成されたCKSTMPRTFスプール・ファイルの先頭10ページのテキスト専用バージョンの印刷ジョブをバッチに投入します。(この機能はAFP (拡張機能表示) スプール・ファイルの索引付けを補助する特定値に関する機能です。)

例2:より複雑な例

```
PRTTXTOND SPLF(CKSTMPRTF) JOB(123456/OPERATOR/NIGHTBATCH)
          SPLNBR(*LAST) STMF('/MYDIR/MYOUTPUT.TXT')
```

このコマンドは例1に似ていますが、出力を受け取るストリーム・ファイルと同じように、スプール・ファイルの特定ジョブおよびスプール・ファイル番号(*LAST)を指定しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTTXTOND

***ESCAPE** メッセージ

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3C40

スプール・ファイル&4が見つからない。

[トップ](#)

AFP スプール・ファイル・テキストの印刷 (PRTTXTRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

AFP スプール・ファイル・テキストの印刷 (PRTTXTRDAR)コマンドによって、AFPDSまたはLINEAFPDS 報告書のすべてまたは一部を印刷することができます。これによって、報告書管理担当者はSTRCDSRDAR では報告書がどのようになるかを表示して、報告書の定義に必要な値を判別することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SPLF	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成	時刻, *ONLY, *LAST	
PAGERANGE	印刷するページ範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ページ	整数, 1	
	要素 2: 終了ページ	整数, 10, *END	
REPORT	報告書名	文字値, *NONE	オプション
VERSION	バージョン	1-99, 01, *HIGHEST	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QRDARS400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PRTTYPE	印刷のタイプ	*PRINT, *DEBUG, *TRACE	オプション

トップ

スプール・ファイル (SPLF)

ONDEMANDへの入力として使用するスプール・ファイルの名前を指定します。これは、ファイルの作成時にユーザー・プログラムによって指定されたファイル名であるか、あるいはこのファイルの作成時に使用された装置ファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

* スプール・ファイルを作成したジョブがこのコマンドを出したことを指定します。

ジョブ名

使用するジョブの名前を指定します。ジョブ修飾子を指定しない場合には、システム上に現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合には、すべての重複した修飾ジョブ名が含まれるメッセージのリストが表示されます。

ユーザー名

ジョブを実行したユーザー・プロファイル名を指定します。

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

どのジョブのスプール・ファイルを印刷するかを、番号によって指定します。

*ONLY

指定されたファイル名をもつスプール・ファイルは、このジョブでは1つだけです。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名で最高位の番号のスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、ジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイルの作成日時パラメーターがスプール・ファイル番号より優先される場合には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

使用するよう指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時のスプール・ファイルが1つあります。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時で現行システム上に作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用されるスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、スプール・ファイルの作成日時パラメーターがジョブ・システム名より優先される場合には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定してください。

トップ

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最新の作成日時のスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定してください。

可能な作成時刻値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最新の作成時刻のスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定してください。

トップ

印刷するページ範囲 (PAGERANGE)

印刷する開始ページおよび終了ページを指定します。

要素1: 開始ページ

1 報告書の1ページ目から開始します。

開始ページ番号

印刷する開始ページを指定します。

要素2: 終了ページ

10 10ページ目で印刷を終了します。

***END** 最後のページが印刷されるまで、印刷続行されます。

終了ページ番号

印刷する最後のページを指定します。

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

スプール・ファイルの印刷時に使用する報告書定義の名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

通常、*NONEは報告書定義名に使用する正しい値です。しかし、特定の報告書定義を使用することが必要になる場合があります。V4R4M0では、ONDEMANDではAFPデータの印刷方法を決定する改善された方式が紹介されています。この新しい方式では索引の列位置がより正確になっています。しかし、この列位置はこの新しい方式が紹介される前とは異なっている可能性があります。PRTTXTRDARを使用して新しい報告書または既存の報告書の新しいバージョンの索引づけを容易にするには、報告書名(REPORT パラメーター)として*NONEを使用する必要があります。*NONEによって、常に改善された印刷方式が使用されます。ONDEMANDのV4R4M0以前に作成された既存の報告書定義を変更する場合には、PRTTXTRDARがどの印刷方式を使用するかを判別できるように、報告書名(REPORTパラメーター)とバージョン(VERSIONパラメーター)を指定する必要があります。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

報告書の記憶で使用する報告書定義のバージョンを指定します。

01 報告書定義の最初のバージョンが使用されます。

*HIGHEST

報告書定義の最高位に定義されたバージョンが使用されます。

01-99 使用する報告書のバージョン番号を指定します。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

指定されたデータを対話式でまたはバッチ・ジョブで印刷したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBDD)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

印刷のタイプ (PRTTYPE)

印刷出力をフォーマットする方法を指定します。*PRINT以外の値では、多くのページの出力が生成され、これは主にプログラムDEBUG用です。

***PRINT**

この報告書をリストとして印刷します。

***DEBUG**

データおよびデバッグ情報を印刷します。これは注意してご使用ください。AFPDS 印刷装置ファイルは、元のページ数の100倍の生成が可能です。

***TRACE**

データを印刷し、AFP構造化フィールドを追跡します。

トップ

PRTTXTRDARの例

例1:簡単な例

```
PRTTXTRDAR SPLF(CKSTMPRTF)
```

このコマンドは、現行ジョブで生成されたCKSTMPRTFスプール・ファイルの先頭10ページのテキスト専用バージョンの印刷ジョブをバッチに投入します。(この機能はAFP (拡張機能表示) スプール・ファイルの索引付けを補助する特定値に関する機能です。)

例2:より複雑な例

```
PRTTXTRDAR SPLF(CKSTMPRTF) JOB(123456/OPERATOR/NIGHTBATCH)
      SPLNBR(*LAST) REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(*HIGHEST)
```

このコマンドは例1に似ていますが、V4R4より前に作成された定義のAFP (拡張機能表示) データの正しい変換処理を保証するために、ONDEMANDスプール・ファイル保存報告書定義名とバージョンのほかに特定のジョブおよびスプール・ファイルのスプール・ファイル番号(*LAST)を指定しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTTXTRDAR

*ESCAPE メッセージ

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3C40

スプール・ファイル&4が見つからない。

RDR0322

PRTTXTRDARはこの報告書を印刷することができない

[トップ](#)

ONDEMANDの報告書の再利用 (RCLRPTRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの報告書の再利用 (RCLRPTRDAR)コマンドは、指定された報告書をディスク、テープ、または光ディスクから再利用（回復）し、任意選択でSTRCDSRDARを再実行します。再利用された報告書はジョブの出力待ち行列に入れられます。RCLRPTRDARコマンドは、失われたONDEMAND報告書の回復のためだけに使用し、注意して使用するか、あるいはサポート・センターの援助を得て使用するだけにしなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99	必須, 定位置 2
RPTDATE	報告書日付	文字値	必須, 定位置 3
RPTSEQ	報告書順序番号	1-999	必須, 定位置 4
FROM	報告書再利用元	*DASD, *OPTICAL, *TAPE, *TAPEMGR	必須, 定位置 5
ACCTYPE	省略時光ディスクVOLタイプ	*HFS, *RDARLAN	オプション
OPTVOL	光ディスク・ボリューム	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	文字値	
	要素 2: ライブラリー	名前, *NONE	
	要素 3: タイプ	*ACCTYPE, *HFS, *RDARLAN	
TAPDEV	テープ装置	名前	オプション
MLB	媒体装置ライブラリー	名前	オプション
SEQNBR	テープ順序番号	1-9999, *SEARCH	オプション
TAPVOL	テープ・ボリューム	値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値	オプション
ENDOPT	テープの終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
AUTOSTORE	報告書の自動記憶	*NO, *YES	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QRDARS400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

報告書名 (REPORT)

再利用する報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

再利用する必要がある報告書のバージョンを指定します。この値は01 - 99の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書日付 (RPTDATE)

報告書の日付は、STRCDSRDARからのQPRLRCDS印刷装置ファイル内で、あるいは指定の報告書の報告書日付を示すONDEMAND画面で調べることができます。

日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

順序番号 (RPTSEQ)

再利用される報告書の報告書順序番号を指定します。この値は001-999の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書再利用元 (FROM)

報告書をどこから再利用する必要があるかを指定します。

*DASD

報告書はディスクから再利用されます。

*OPTICAL

報告書は、OPTVOLパラメーターに指定された光ディスク・ボリュームから再利用されます。

*TAPE

報告書は、TAPVOLパラメーターに指定されたテープ・ボリュームから再利用されます。

*TAPEMGR

報告書は、BRMS FOR ISERIESなどの外部テープ管理機能を使用してテープから再利用されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

省略時光ディスクVOLタイプ (ACCTYPE)

省略時として使用する光ディスク・ボリューム・タイプを指定します。

***HFS** ISERIES光ディスク・サポートを使用します。報告書を光ディスクに保存するためにONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用したことが判明していないかぎり、すべての光ディスク・ライブラリー（直接接続またはLAN接続）に対してこれを指定してください。

*RDARLAN

ONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用します。報告書を光ディスクに保存するためにONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用したことが判明した場合にかぎり、これを使用してください。

[トップ](#)

光ディスク・ボリューム (OPTVOL)

再利用する報告書が入っている光ディスク・ボリュームのIDを指定します（最大10個まで）。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

要素1: 名前

ID 光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

要素2: ライブラリー

名前 光ディスク・ボリュームが入っている光ディスク・ライブラリー名を指定してください。このパラメーターが必要になるのは、ACCTYPEパラメーターが*RDARLANである時、あるいは**タイプ**要素が*RDARLANの時だけです。

要素3: タイプ 光ディスク・ボリュームのタイプを指定します。

*ACCTYPE

ACCTYPEパラメーターに指定された値を使用します。

***HFS** ISERIES光ディスク・サポートを使用します。報告書を光ディスクに保存するためにONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用したことが判明しない場合には、すべての光ディスク・ライブラリーに対してこれを指定してください。

*RDARLAN

ONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用します。報告書を光ディスクに保存するためにONDEMAND LAN光ディスク・サポートを使用したことが判明した場合にかぎり、これを使用してください。

テープ装置 (TAPDEV)

再利用のために使用されるテープ装置の名前を指定します。

トップ

媒体装置ライブラリー (MLB)

テープ装置(TAPDEV)パラメーターに指定されたテープ装置が設置されている媒体装置ライブラリーの名前を指定します。このパラメーターは、テープ装置が媒体装置ライブラリーに設置されている場合にだけ使用されます。

トップ

テープ順序番号 (SEQNBR)

再利用する報告書のテープ順序番号を指定します。

*SEARCH

報告書についてテープが検索され、一致するものが見つかった場合には、その報告書が再利用されます。テープ装置の最後の操作が、**テープの終わり(ENDOPT)**パラメーターに*LEAVEを指定して、テープの最後の操作が終了した位置に位置づけられることを指示した場合には、現在のテープの位置を超えた最初の報告書からファイルの検索が開始されます。最後の操作でテープの終わりのオプション・プロンプト(ENDOPTパラメーター) に*LEAVEを使用しなかった場合、あるいはその操作以降にテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初の報告書から開始されます。

ファイル順序番号

報告書の再利用操作で使用されるファイルの順序番号を指定します。

トップ

テープ・ボリューム (TAPVOL)

テープ装置に取り付けて、報告書の再利用に使用する順序に、1から10のボリュームのボリューム名を指定します。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

トップ

テープの終わりオプション (ENDOPT)

テープを使用する時に、再利用の操作終了後にテープ・ボリウムで自動的に実行される位置指定の操作を指定します。複数のテープ・ボリウムが含まれている場合には、このパラメーターが適用されるのは、最後に使用するテープ・ボリウムに対してだけです。テープの終わりに達した時に、他のすべてのテープ・ボリウムが巻き戻されて、取り外されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、取り外しは行なわれません。

*LEAVE

操作の終了後に、テープの巻き戻しおよび取り外しは行なわれません。テープはテープ・ドライブの現在の位置のままとなります。

*UNLOAD

操作の終了後に、テープの巻き戻しおよび取り外しが自動的に行なわれます。

[トップ](#)

報告書の自動記憶 (AUTOSTORE)

再利用された報告書をコード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR) コマンドを使用して記憶する必要があるかどうかも同様に指定します。

***NO** 再利用された報告書は自動的に記憶されません。

***YES** 再利用された報告書はSTRCDSRDARコマンドを使用して再び記憶されます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

この報告書を現行ジョブ内またはバッチ・ジョブで再利用したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

RCLRPTRDARの例

例1:簡単な例

```
RCLRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) FROM(*OPTICAL) OPTVOL((0D0000000012))
```

このコマンドは、光ディスク・ボリュームOD0000000012から、特定のONDEMANDスプール・ファイル保存の保存済み報告書（名前CHECKSTMTS）の再スプール・ジョブをバッチに投入します。再利用されたスプール・ファイルはジョブの出力待ち行列に入れられます。このコマンドは、保存された報告書に問題が起これば、スプール・ファイルを再保存する必要がある時に、しばしば使用されます。

例2:より複雑な例

```
RCLRPTRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) FROM(*OPTICAL) OPTVOL((0D0000000012))
          AUTOSTORE(*YES)SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは例1に似ていますが、対話式に実行され、再利用されたスプール・ファイルをONDEMANDスプール・ファイル保存に自動的に戻して保管します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLRPTRDAR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

RDR0101

&1に対するSTRCDSRDARの処理が正常に行なわれなかった。STRCDSRDARを再実行してRESTART(&2)を指定してください。

RDR0168

報告書&1/&2/&3.&4でエラーが検出された。この報告書は印刷されませんでした。

[トップ](#)

ONDEMANDからの報告書の除去 (RMVRPTOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDからの報告書の除去 (RMVRPTOND)コマンドは、指定された報告書をONDEMANDから除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRP	アプリケーション・グループ	文字値	必須, 定位置 1
RPTID	報告書ID	文字値	必須, 定位置 2
INSTANCE	インスタンス	文字値, <u>QUSROND</u>	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QOND400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QRDARS</u> , *LIBL, *CURLIB	
ERROPT	エラー・オプション	*FRCRMV, *NOFRCRMV	オプション

[トップ](#)

アプリケーション・グループ (APPGRP)

除去する報告書が入っているアプリケーション・グループの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、パラメーターINSTANCEがQUSRONDでない場合には、有効でないことがあります。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

報告書ID (RPTID)

除去する報告書の報告書IDを指定します。

報告書IDは"1220-1-0-8FAA-9939-9345"の形式になっています。この場合に、"1220"は内部アプリケーション・グループID、"1"は1次記憶域ノード、"0"は2次記憶域ノード、"8FAA"はカウンター、"9339"は報告書ファイルの最初の（内部）日付、"9345"は報告書ファイルの最後の（内部）日付です。報告書IDはロードIDとしても知られています。

注: 報告書IDはログ・ファイルで見つけることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

特定の報告書を対話式に除去するか、それともバッチ・ジョブで除去するかを指定してください。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

エラー・オプション (ERROPT)

システム・ログに報告書IDが見つからない場合であっても、報告書の除去を強制します。

*FRCRMV

報告書IDがシステム・ログに見つからない場合に、報告書を除去します。

***NOFRCRMV**

報告書IDがシステム・ログに見つからない場合には、報告書を除去しません。

[トップ](#)

RMVRPTONDの例

例1:簡単な例

```
RMVRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) RPTID('1220-1-0-8FAA-9939-9345')
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバー・アプリケーション・グループ(CHECKSTMTS)から、示されたロードID（報告書IDとしても知られている）をもつ保存済みスプール・ファイルを除去するジョブをバッチに投入します。このコマンドには、インスタンス名が指定されていないので、保存済みデータがQUSRONDインスタンスから除去されることを前提としています。

例2:より複雑な例

```
RMVRPTOND APPGRP(CHECKSTMTS) RPTID('1220-1-0-8FAA-9939-9345')
          INSTANCE(ACCTING) SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは例1に似ていますが、対話式に実行され、保存済み報告書を除去する特定のインスタンスが指定されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVRPTOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0222

RMVRPTONDがエラーで終了した。報告書は除去されませんでした。

[トップ](#)

CM FOR ONDEMANDからの除去 (RMVVIRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CM FOR ONDEMANDからの除去 (RMVVIRDAR)コマンドは、指定されたONDEMAND報告書をCONTENT MANAGER FOR ISERIESから除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99	必須, 定位置 2
RPTDATE	報告書日付	文字値	必須, 定位置 3
RPTSEQ	報告書順序番号	AAA-999	必須, 定位置 4
CALLVI	CM FOR ISERIES プログラム呼出し	*YES, *NO	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

削除する必要がある報告書のバージョンを指定します。この値は01 - 99の範囲でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書日付 (RPTDATE)

削除する報告書の報告書日付を指定します。

日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特許文字も使用しないでください。

報告書の日付は、STRCDSRDARからのQPRLRCDS印刷装置ファイル内で、あるいは指定の報告書の報告書日付を示すONDEMAND画面で調べることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書順序番号 (RPTSEQ)

削除する報告書の報告書順序番号を指定します。これがANystore 報告書でなければ、この値は001-999の範囲でなければなりません。ANystore報告書の順序番号はAAA-999にすることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

CM FOR ISERIES プログラム呼出し (CALLVI)

CONTENT MANAGER FOR ISERIESからの報告書の削除処理を完了するために、QVIXRFDELプログラムを呼び出したいかどうかを指定してください。

注: QVIXRFDELプログラムは、CONTENT MANAGER FOR ISERIESインターフェース・ファイル内の削除のマークが付いたすべてのONDEMAND報告書を削除します。

***YES** *YESを指定した場合には、指定された報告書をCONTENT MANAGER FOR ISERIESから削除するためにQVIXRFDELプログラムが呼び出されます。

***NO** *NOを指定した場合には、指定されたONDEMAND報告書はCONTENT MANAGER FOR ISERIES中で削除のためにマーク付けされるだけです。インターフェース・ファイル内で削除のマーク付きのすべての報告書の削除を完了するには、後からQVIXRFDELプログラムの呼び出しが必要です。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

特定の報告書に対話式にまたはバッチ・ジョブで削除したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

RMVVIRDARの例

例1: 簡単な例

```
RMVVIRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは、対話式に実行され、既存のONDEMANDスプール・ファイル保存報告書索引を、指定された特定日付のONDEMAND報告書定義（名前CHECKSTMTS）のCONTENT MANAGER（従来VISUALINFOまたはVIとして知られていた）から除去します。

例2: より複雑な例

```
RMVVIRDAR REPORT(CHECKSTMTS) VERSION(01) RPTDATE(20020101)
          RPTSEQ(001) JOBID(MYCMLIB/MYCMJOBID)
```

このコマンドは例1に似ていますが、省略時のONDEAMNDジョブ記述の代わりに、指定されたジョブ記述を使用してバッチに投入されます。

トップ

エラー・メッセージ: RMVVIRDAR

***ESCAPE** メッセージ

RDR1165

報告書&1/&2/&3.&4は除去されていません。

トップ

ONDEMANDを使用した保存の開始 (STRARCRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDを使用した保存の開始 (STRARCRDAR)コマンドは、同じライブラリーに入っている単一オブジェクトまたはオブジェクトのグループのコピーを保管します。指定されたオブジェクトは、オブジェクト・ポリシー（光ディスクまたはテープのいずれか）に指定された通り、各オブジェクトのコピーを保管媒体に書き込むことによって、保管します。記憶域の解放の必要性がコマンドによって指定されないかぎり、システム上のオブジェクトは何の影響も受けません。オブジェクトの活動記録は、保管されたという事実で更新されることはありません。システム保管コマンドの1つを使用してオブジェクトを保管した場合にかぎり、オブジェクトの活動記録が更新されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CRQD, *CMD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOB, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *MENU, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *WSCST	オプション, 定位置 3
STG	記憶域	*KEEP, *FREE	オプション
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *BLANK	オプション
RESTART	再始動	*NO, *YES	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

保存したいオブジェクトの名前またはオブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトがライブラリー (**LIB**)パラメーターに指定された同じライブラリー内になければなりません。オブジェクト・タイプ(**OBJTYPE**)パラメーターが指定されていない場合には、そのパラメーターの記述にリストされたすべてのオブジェクト・タイプが保存されます（指定された名前がある場合）。

これは必須パラメーターです。

***ALL** オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターによって指定されたタイプの指定されたライブラリー内のすべてのオブジェクトが保存されます。

総称*オブジェクト名

保存したい、指定したライブラリー内のオブジェクトのグループの総称名を指定します。

オブジェクト名

保存したい特定オブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

保存するオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。ライブラリーの名前を入力してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保存するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保存できるオブジェクト・タイプの完全なリストについては、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターのフィールドにカーソルを移動して、F4キーを押してください。

ALL** 名前によって指定され、指定したライブラリー内にあるすべてのオブジェクト・タイプが保存されます。**オブジェクト(OBJ)**パラメーターにもALL**が指定された場合には、保存できるタイプのライブラリー内にあるすべてのオブジェクトが保存されます。

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD), ファイル(*FILE), またはプログラム(*PGM)など、保存するオブジェクトのそれぞれのタイプの値を指定します。

[トップ](#)

記憶域 (STG)

保存しているライブラリー内のファイル、プログラム、構造化照会言語(SQL)パッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占有されたシステム記憶域を、保存操作の一部として解放するかどうかを指定します。オブジェクトの記述ではなく、オブジェクトのデータ部分が削除（解放）されます。

***KEEP**

保存されるオブジェクトのデータ部分によって占有されている記憶域は解放されません。

***FREE**

保存しているファイル、プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占有された記憶域は、保存操作の一部として解放されます。そのライブラリー内のすべてのオブジェクトが正常に保存された後にかぎり、ライブラリー内のすべてのオブジェクトの記憶域が解放されます。

注: プログラムの異常終了を回避するためには、*FREEが指定されたシステムで、保存しているプログラムを実行してはいけません。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

保存操作に関して提供される詳細の程度を指定します。この情報は、印刷装置ファイルQPRLOARCのジョブのスパール出力で印刷されます。

***BASIC**

コマンドに指定されるパラメーターのリスト、使用されるオブジェクト・ポリシー、および保存に関する統計がリストされます。

***FULL** *BASICパラメーターによって提供される情報の他に、保存される各オブジェクトのリストが提供されます。

[トップ](#)

テキスト '記述' (TEXT)

保存を簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。このテキストは、オブジェクトの他の情報とともにONDEMANDによって記憶されます。また、このテキストは、オブジェクトを保存する時に印刷される印刷装置ファイルQPRLOARCにも表示されます。

[トップ](#)

再始動 (RESTART)

これが、前に正常に実行されなかった保存の再開であるかどうかを指定します。

***NO** これは、前に正常に実行されなかった保存の再開ではありません。

***YES** これは、前に正常に実行されなかった保存の再開です。

[トップ](#)

STRARCRDARの例

例1:簡単な例

```
STRARCRDAR OBJ(MYOBJECT) LIB(MYLIB)
```

このコマンドは、MYLIBライブラリー中の任意のタイプのオブジェクトをMYOBJECTの名前でONDEMANDオブジェクト保存内に保存します。

例2:より複雑な例

```
STRARCRDAR OBJ(MYOBJECT) LIB(MYLIB) OBJTYPE(*FILE)
```

このコマンドは例1に似ていますが、タイプ*FILEのオブジェクトのみを保存します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRARCRDAR

*ESCAPE メッセージ

RDR1001

ライブラリー&1に対する前の保存が正常に実行されず、RESTART(*NO)が指定された。

RDR1002

ライブラリー&1に対する保存はすでに進行中である

RDR1003

保存の再始動が正常に実行されなかった。

RDR1005

保存が正常に実行されなかった。&1個のオブジェクトが正常に保存されました。

RDR1006

保存が正常に実行されなかった。どのオブジェクトも保存されませんでした。

RDR1007

オブジェクト管理テーブル(OCT)に省略時の項目がない。

RDR1008

オブジェクト・ポリシー&1が見つからない。

[トップ](#)

保存記憶域管理開始 (STRASMOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保存記憶域管理開始 (STRASMOND)コマンドは、ASM定義レベル内でデータの移動を管理する保存記憶域管理(ASM)プロセスを開始します。現在処理中のものを終了するのに使用できる時間が十分にある場合には、この機能を制御付き取り消しオプションによって取り消すことができます。

STRASMONDでは、実行するジョブがDB2をサーバー・モードに設定できることが必要です。このコマンドを対話式に実行する場合には、これが唯一の必要条件です。対話式ジョブでSTRASMONDが実行される前にSQLステートメントが処理されると、STRASMONDはSQLエラーで失敗します。この問題を避けるには、常にSTRASMONDをバッチ（省略時の値）に投入するか、あるいはSTRASMONDを対話式に実行する前にサインオフしてサインオンし直してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
POLICY	ポリシー	文字値	オプションル、位置 1
PROCESS	実行する処理	*ALL , *MIGRATION, *EXPIRATION	オプションル
INSTANCE	インスタンス	名前, QUSROND	オプションル
SBMJOB	バッチへの投入	*YES , *NO	オプションル
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS , *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ポリシー (POLICY)

保存記憶域管理が要求された機能に対して実行するポリシーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのポリシーが使用されます。これにより、適格なすべてのデータが管理されます。

ポリシー名

ASMが処理するポリシーの名前を指定してください。これにより、指定されたポリシーに関連した適格なデータだけが管理されます。

[トップ](#)

実行する処理 (PROCESS)

保存記憶域管理(ASM)プロセスが移行処理を行うか、または満了処理を行うか、あるいはその両方を行うかを指定します。ASMプロセスにかかる時間が重要な場合には、これらの機能を分離することができます。

***ALL** 移行と満了の両方のプロセスが実行されます。

*MIGRATION

移行プロセスだけが実行されます。

*EXPIRATION

満了プロセスだけが実行されます。

[トップ](#)

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

ASMをバッチで実行するか、それとも対話式に実行するかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

STRASMONDの例

例1:簡単な例

STRASMOND

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバー保存記憶域管理(ASM)プロセスを開始するジョブをバッチに投入しますが、このプロセスは保存媒体の定義済みレベル内でのデータの移動を管理します。パラメーターを指定しないでこのコマンドを出すと、省略時のQUSRONDインスタンスのすべての定義済み記憶域管理ポリシーのデータが処理され、移行と満了の両方の処理が実行されます。

例2:より複雑な例

STRASMOND POLICY(APDATAPOL) PROCESS(*MIGRATION)

このコマンドは例1に似ていますが、APDATAPOLポリシー定義と関連したデータだけを処理し、移行処理だけが実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRASMOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0261

&1の保存ファイルが検査され、&2が処理され、&3が失敗した。

[トップ](#)

コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コード化データ記憶の開始 (STRCDSRDAR)コマンドによって、ONDEMANDに報告書を記憶することができます。この処理中に必要な場合には、報告書を複数のセグメントに分割し、索引付けし、圧縮し、さらに検索のためにディスク上に記憶し、後から光ディスクまたはテープ媒体に移行させます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
REPORT	報告書名	文字値	必須, 定位置 1
VERSION	バージョン	1-99, <u>01</u> , *HIGHEST	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
FILE	入力ファイル	単一値: * <u>SPLF</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 入力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, * <u>FIRST</u> , *LAST	オプション
SPLF	スプール・ファイル	名前	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, * <u>ONLY</u> , *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, * <u>ONLY</u> , *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: * <u>ONLY</u> , *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成	時刻, * <u>ONLY</u> , *LAST	
DLTINPUT	入力ファイルの削除	* <u>NO</u> , *YES	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	* <u>YES</u> , *NO	オプション
JOBDD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
RESTART	再始動	* <u>NO</u> , *YES	オプション

トップ

報告書名 (REPORT)

処理する報告書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

報告書の記憶で使用される報告書定義のバージョンを指定します。

01 報告書定義の最初のバージョンが使用されます。

***HIGHEST**

報告書定義の最高位に定義されたバージョンが使用されます。

01-99 使用する報告書のバージョン番号を指定します。

[トップ](#)

テキスト '記述' (TEXT)

この報告書の記憶を簡単に記述するテキストを指定します。このテキストは記憶される報告書の記述になり、エンド・ユーザーに対して示されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。報告書定義からの報告書の記述がテキストとして使用されます。

'記述' 50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定してください。

[トップ](#)

入力ファイル (FILE)

記憶する報告書データの検出場所を指定します。

単一値

***SPLF** 報告書データは、SPLF、JOB、およびSPLNBRパラメーターによって指定されたスプール・ファイルから読み取られます。

修飾子1: 入力ファイル

名前 記憶する報告書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。このデータの各行の最初の文字には、有効なASA用紙制御文字が入っていなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、ファイルの置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

記憶する報告書データが入っているデータベース・メンバーの名前を指定します。

*FIRST

データベース・ファイルの最初のメンバーに、記憶する報告書データが入っています。

***LAST** データベース・ファイルの最後のメンバーに、記憶する報告書データが入っています。

メンバー名

記憶する報告書データが入っているデータベース・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル (SPLF)

記憶処理への入力として使用するスプール・ファイルの名前を指定します。これは、ファイルの作成時にユーザー・プログラムによって指定されたファイル名であるか、あるいはこのファイルの作成時に使用された装置ファイルの名前です。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを生成したジョブの名前を指定します。

***** このコマンドを入力したジョブを使用します。

ジョブ名

使用するジョブの名前を指定します。ジョブ修飾子を指定しない場合には、システム上に現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合には、すべての重複した修飾ジョブ名が含まれるメッセージのリストが表示されます。

ユーザー名

ジョブを実行しているそのユーザー・プロファイルを識別する名前を指定します。

番号 システムによって割り当てられたジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

記憶するジョブのスプール・ファイルを番号によって指定します。

***ONLY**

指定されたファイル名をもつスプール・ファイルは、このジョブでは1つだけです。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

***LAST** 指定されたファイル名で最高位の番号のスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、ジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイルの作成日時パラメーターがスプール・ファイル番号より優先される場合には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

使用するよう指定されたファイル名をもつスプール・ファイルの番号を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター)が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時のスプール・ファイルが1つあります。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時で現行システム上に作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用されるスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名が使用されません。スプール・ファイルを選択する時に、スプール・ファイルの作成日時パラメーターがジョブ・システム名より優先される場合には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定してください。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の各パラメーターの要件が満たされた後で考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最新の作成日時のスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定してください。

可能な作成時刻値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日のスプール・ファイルが1つあります。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最新の作成時刻のスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定してください。

[トップ](#)

入力ファイルの削除 (DLTINPUT)

報告書データがONDEMANDによって正常に記憶された後に、入力報告書を削除するかどうかを指定します。正常に実行されないSTRCDSRDARでは、入力は削除されません。

***NO** 入力の報告書データは保管されます。

***YES** 入力の報告書データは削除されます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

指定された報告書に対話式またはバッチ・ジョブで記憶したいかどうかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

再始動 (RESTART)

これが、前に割り込みされた実行を再始動するものであるかどうかを指定します。STRCDSRDARがエラーのために正常に実行されない場合には、QPRLRCDS印刷装置ファイルにメッセージが出されて、このパラメーターに*YESを指定する必要がある時点を指示してくれます。

***NO** これは、前に正常に実行されなかった実行の再始動ではありません。

***YES** これは、前に正常に実行されなかったSTRCDSRDARの実行を再始動するためのものです。この値は、UBNDの報告書タイプを処理する時に指定することはできません。

[トップ](#)

STRCDSRDARの例

例1:簡単な例

```
STRCDSRDAR REPORT(CHECKSTMTS) SPLF(CKSTMPRTF)
```

このコマンドは、現行ジョブからのCKSTMPRTFスプール・ファイルをONDEMANDスプール・ファイル保存に取り込むジョブをバッチに投入します。

例2:より複雑な例

```
STRCDSRDAR REPORT(CHECKSTMTS) SPLF(CKSTMPRTF)
          JOB(123456/OPERATOR/NIGHTBATCH) SPLNBR(*LAST)
          SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは、対話式に実行され、夜間バッチ・ジョブNIGHTBATCHからのCKSTMPRTFスプール・ファイルの最後のオカレンスを取り込みます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRCDSRDAR

*ESCAPE メッセージ

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3C40

スプール・ファイル&4が見つからない。

RDR0101

&1に対するSTRCDSRDARの処理が正常に行なわれなかった。STRCDSRDARを再実行してRESTART(&2)を指定してください。

RDR0202

報告書&1を記憶することができなかった。

RDR0323

スプール・ファイルを処理することができない

[トップ](#)

ディスク記憶域管理の開始 (STRDSMOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク記憶域管理の開始 (STRDSMOND)コマンドは、ディスク上のONDEMANDのデータの移動およびディスクと保存記憶域管理(ASM)との間での移動を管理するディスク記憶域管理(DSM)タスクを開始します。DSMは、ONDEMANDのデータの有効期限も制御します。現在処理中のものを終了するのに使用できる時間が十分にある場合には、この機能を制御付き取り消しオプションによって取り消すことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRP	アプリケーション・グループ	文字値	オプション、定位置 1
MGROPT	移行オプション	*DATA, *INDEXES, *ALL, *NONE	オプション
EXPOPT	満了オプション	*ALL, *DATA, *INDEXES, *IMPIDX, *NONE	オプション
STRASMOND	ASMの実行	*YES, *NO	オプション
POLICY	ポリシー	文字値	オプション
INSTANCE	インスタンス	文字値, <u>QUSROND</u>	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QOND400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QRDARS</u> , *LIBL, *CURLIB	
VALIDATE	ONDEMANDディスク記憶域の検査	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

アプリケーション・グループ (APPGRP)

管理の実行対象のアプリケーション・グループの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、コマンドが実行されているサーバーの省略時のインスタンスのみに有効です。

***ALL** 管理はすべてのアプリケーション・グループに対して実行されます。

アプリケーション・グループ

指定されたアプリケーション・グループのみに管理を実行します。

入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

移行オプション (MGROPT)

実行する移行機能を指定します。

***DATA**

ONDEMANDの保存データのみを移行します。

***INDEXES**

ONDEMANDの索引データのみを移行します。

注: 移行された索引は、最初にONDEMANDへインポートし戻してからでなければ検索できません。検索する必要がある索引は移行しないでください。索引を移行できるようにする前に、実際にそれを行いたいことを確認してください。

***ALL** ONDEMANDの保存データと索引の両方を移行します。

注: 移行された索引は、最初にONDEMANDへインポートし戻してからでなければ検索できません。検索する必要がある索引は移行しないでください。索引を移行できるようにする前に、実際にそれを行いたいことを確認してください。

***NONE**

移行は実行されません。

トップ

満了オプション (EXPOPT)

実行する満了機能を指定します。

***ALL** すべての満了オプションを実行します。

***DATA**

ONDEMANDの保存データだけを満了にします。

***INDEXES**

ONDEMANDの索引データだけを満了にします。

***IMPIDX**

インポートされた索引データだけを満了にします。

***NONE**

満了処理は実行されません。

トップ

ASMの実行 (STRASMOND)

ディスク記憶域管理プロセスが終了した後で、保存記憶域管理プロセスを実行するかどうかを指定します。

***YES** 保存記憶域管理プロセスを実行します。

***NO** 保存記憶域管理プロセスを実行しません。

トップ

ポリシー (POLICY)

パラメーターSTRASMONDが*YESの場合に使用する保存記憶域管理のポリシーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのポリシーが使用されます。これにより、適格なすべてのデータが管理されます。

ポリシー名

ASMが処理するポリシーの名前を指定してください。これにより、指定されたポリシーに関連した適格なデータだけが管理されます。

[トップ](#)

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

DSMをバッチで実行するか、対話式に実行するかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前／名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ONDEMANDディスク記憶域の検査 (VALIDATE)

ONDEMANDがそのディスク記憶域構造の妥当性を検査するかどうかを指定します。

***NO** ONDEMANDのディスク構造を妥当性検査しません。

***YES** 適切なファイル許可で、ファイルが正しくリンクされていることを確認するために、それらのすべてのディスク記憶域のファイルが検査されます。

[トップ](#)

STRDSMONDの例

例1: 簡単な例

```
STRDSMOND
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバー・ディスク記憶域管理(DSM)タスクを開始するジョブをバッチに投入しますが、このタスクはディスク上およびディスクと保存記憶域管理(ASM)間のONDEMANDデータの移動を管理します。パラメーターを指定しないでこのコマンドを出すと、QUSRONDという名前の省略時のインスタンスのすべての定義済みアプリケーション・グループのデータについて、データの移行、データと索引の両方の満了処理、が実行されます。また、この例のようにパラメーターを指定しない場合には、DSM処理の終了後にASMが自動的に実行されます。

例2: より複雑な例

```
STRDSMOND APPGRP(CHECKSTMTS) INSTANCE(ACCTING)
```


このコマンドは例1に似ていますが、ディスク記憶域管理処理はACCTINGインスタンス内の共通サーバー・アプリケーション・グループCHECKSTMTSについてだけ実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRDSMOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0271

STRDSMONDはエラーで終了した。

[トップ](#)

ONDEMANDへのインポートの開始 (STRIMPOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDへのインポートの開始(STRIMPOND)コマンドによって、ONDEMANDにデータをインポートすることができます。このコマンドは、索引データを代替媒体（光ディスクまたはテープ）に移行している（これは推奨されないが、場合によっては必要なこともある）場合に使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRP	アプリケーション・グループ	文字値	必須, 定位置 1
IDXTBL	インポートする索引テーブル	文字値	オプション
INSTANCE	インスタンス	文字値, QUSROND	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES , *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS , *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

アプリケーション・グループ (APPGRP)

インポート・プロセスで使用するアプリケーション・グループの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、有効項目のリストが表示されます。リストされる項目は、パラメーターINSTANCEがQUSRONDでない場合には、有効でないことがあります。

名前 アプリケーション・グループ名を指定します。入力する値に英小文字、ブランク、または特殊文字が含まれている場合には、アポストロフィで囲む必要があります。

注: 使用するアプリケーション・グループは、インポートする索引データを要求するシステム・ログ・メッセージから使用可能です。

[トップ](#)

インポートする索引テーブル (IDXTBL)

インポートする索引データが入っているテーブルの名前を指定します。

注: 使用するテーブル名は、インポートする索引データを要求するシステム・ログ・メッセージから使用可能です。

[トップ](#)

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

データを対話的にインポートするか、それともバッチ・ジョブでインポートするかを指定してください。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前（名前/名前）を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

STRIMPONDの例

例1:簡単な例

```
STRIMPOND APPGRP(CHECKSTMTS) IDXTBL(CAA4)
```

このコマンドは、移行済みCHECKSTMTS索引データをディスクにインポートして戻すジョブをバッチに投入します。このコマンド例は、省略時のONDEMANDインスタンスQUSROND,および省略時のジョブ記述QOND400を使用しています。

例2:より複雑な例

```
STRIMPOND APPGRP(CHECKSTMTS) IDXTBL(CAA4) INSTANCE(ACCTING)
          SBMJOB(*NO)
```

このコマンドは例1に似ていますが、対話式に実行され、ACCTINGインスタンスを使用しています。

トップ

エラー・メッセージ： STRIMPOND

***ESCAPE** メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0241

STRIMPONDはエラーで終了した。インポートは成功していません。

トップ

ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONOND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONOND)コマンドによって、モニターする出力待ち行列またはディレクトリーの名前を指定することができます。出力待ち行列中のスプール・ファイルまたはディレクトリー中のファイルは、ADDRPTONDによって自動的に処理されます。

ファイルが処理されると、そのファイルはDLTSPLFパラメーターの値によって制御されます。スプール・ファイルは、さらにERROUTQパラメーターおよびPRCOUTQパラメーターの設定によって制御されます。DLTSPLFが*YESの場合には、正常に処理されたファイルは削除されます。*NOの場合には、正常に処理されたスプール・ファイルはPRCOUTQパラメーターに名前を指定された出力待ち行列に移動され、正常に処理されたディレクトリー・ファイルはファイル名の終わりに'.PRC'が付加されます。正常に処理されなかったファイルは削除されることはありません。スプール・ファイルはERROUTQパラメーターに指定された出力待ち行列で終了状態となり、ディレクトリー・ファイルはファイル名の終わりに'.ERR'が付加されます。

モニターは次によって自動的に終了することができます。

- モニターを自動的に終了する方法を指定する。
- ENDMONONDコマンドを実行する。
- ENDJOBコマンドを使用してモニター・ジョブを終了する。OPTION(*CNTRLD)およびDELAY(999999)を指定してください。モニターが現在の報告書の処理を終了すると、ただちにジョブも終了されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*OUTQ, *DIR	オプション
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DIR	ディレクトリー	パス名	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
APPGRPSRC	アプリケーション・グループ値	要素リスト	オプション
	要素 1: 最初を検査	*SPLFNAME , *FORMTYPE, *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH	
	要素 2: 次を検査	*NONE , *FORMTYPE, *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *SPLFNAME, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIRST	
	要素 3: 最後を検査	*NONE , *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *SPLFNAME, *FORMTYPE, *THIRD, *FOURTH, *FIRST, *SECOND	
APPSRC	アプリケーション名の値	要素リスト	オプション
	要素 1: 最初を検査	*APPGRP , *SPLFNAME, *FORMTYPE, *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *FIRST, *SECOND, *THIRD, *FOURTH	
	要素 2: 次を検査	*NONE , *FORMTYPE, *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *SPLFNAME, *SECOND, *THIRD, *FOURTH, *FIRST	
	要素 3: 最後を検査	*NONE , *USERDATA, *JOBNAME, *USRDFNOPT1, *USRDFNOPT2, *USRDFNOPT3, *USRDFNOPT4, *USRDFNDDTA, *SPLFNAME, *FORMTYPE, *THIRD, *FOURTH, *FIRST, *SECOND	
ERROUTQ	エラー用の出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: エラー用の出力待ち行列	名前, ONDERR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QUSRRDARS , *LIBL, *CURLIB	
DLTSPLF	処理されたファイルの削除	*NO , *YES	オプション
PRCOUTQ	処理済み用の出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 処理済み用の出力待ち行列	名前, ONDPROC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QUSRRDARS , *LIBL	
ENDMON	モニターの自動終了	*NO , *NOINPUT, *NBRHRS, *ENDTIME	オプション
NBRHRS	実行のための時間	1-999, 8	オプション
ENDTIME	終了時刻	時刻, 230000	オプション
NBRMON	開始するモニターの数	1-99, 1	オプション
INSTANCE	インスタンス	文字値, QUSROND	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES , *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QOND400	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, QRDARS , *LIBL, *CURLIB	

トップ

タイプ (TYPE)

モニターのタイプを指定します。

*OUTQ

OUTQパラメーターに名前を指定された出力待ち行列をモニターします。

*DIR DIRパラメーターに名前を指定されたディレクトリーをモニターします。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

モニターを開始する出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。TYPE(*OUTQ)を指定した場合には、値を指定しなければなりません。

修飾子1: 出力待ち行列

出力待ち行列名

モニターする出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

モニターするディレクトリーを指定します。TYPE(*DIR)を指定した場合には、値を指定しなければなりません。

ディレクトリーがモニターされる時には、モニターはそのディレクトリーで処理対象のファイルを検索します。そのディレクトリーで見つかった各ファイルが処理されます。ファイル名にはアプリケーション・グループ名およびアプリケーション名が含まれていなければなりません。たとえば 'CHECKSTMTS.BIGSTMTS.DATA'。モニターは、APPGRPSRCおよびAPPSRCパラメーターに指定された値に基づいてファイル名の4つの部分のうちのどれでも使用できます。ファイルが正常に処理されると、DLTSPLF(*YES)を指定していない限り、ファイル名に'.PRC'が付加されます。ロードが正常に実行されなかった場合、あるいはアプリケーション・グループおよびアプリケーションの決定のために指定した値が無効である場合には、ファイル名に'.ERR'が付加されます。 .PRCまたはERRで終わっているファイルは処理されません。

[トップ](#)

アプリケーション・グループ値 (APPGRPSRC)

スプール・ファイルの場合、アプリケーション・グループ名として使用するスプール・ファイル属性を指定します。ディレクトリー・ファイルの場合、アプリケーション・グループ名として使用するファイル名の部分を指定します。最大3つのソースを指定することができます。最初のソースで有効なアプリケーション・グループ名が見つからない場合には、2番目のソースが使用されます。2番目のソースで有効なアプリケーション・グループ名が見つからない場合には、3番目のソースが使用されます。

*NONE以外のそれぞれの値は、1度だけしか使用することはできません。

要素1: 最初を検査

***SPLFNAME**

名前のソースとしてスプール・ファイル名を使用します。

***FORMTYPE**

名前のソースとして用紙タイプを使用します。

***USERDATA**

名前のソースとしてユーザー・データを使用します。

***JOBNAME**

名前のソースとしてジョブ名を使用します。

***USRDFNOPT1**

名前のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

***USRDFNOPT2**

名前のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

***USRDFNOPT3**

名前のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

***USRDFNOPT4**

名前のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

***USRDFNDTA**

名前のソースとしてユーザー定義データを使用します。

***FIRST**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドまでの部分を使用します。

***SECOND**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドと2番目のピリオドの間の部分を使用します。

***THIRD**

名前のソースとしてファイル名の2番目のピリオドと3番目のピリオドの間の部分を使用します。

***FOURTH**

名前のソースとしてファイル名の3番目のピリオドと4番目のピリオドの間の部分を使用します。

2番目または3番目のソースの省略時の値は次の通りです。

***NONE**

ソースをこれ以上検査する必要はありません。

要素2: 次を検査および要素3: 最後を検査

***FORMTYPE**

名前のソースとして用紙タイプを使用します。

***USERDATA**

名前のソースとしてユーザー・データを使用します。

***JOBNAME**

名前のソースとしてジョブ名を使用します。

***USRDFNOPT1**

名前のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

***USRDFNOPT2**

名前のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

***USRDFNOPT3**

名前のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

***USRDFNOPT4**

名前のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

***USRDFNDTA**

名前のソースとしてユーザー定義データを使用します。

***FIRST**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドまでの部分を使用します。

***SECOND**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドと2番目のピリオドの間の部分を使用します。

***THIRD**

名前のソースとしてファイル名の2番目のピリオドと3番目のピリオドの間の部分を使用します。

***FOURTH**

名前のソースとしてファイル名の3番目のピリオドと4番目のピリオドの間の部分を使用します。

2番目または3番目のソースの省略時の値は次の通りです。

***NONE**

ソースをこれ以上検査する必要はありません。

[トップ](#)

アプリケーション名の値 (APPSRC)

スプール・ファイルの場合、アプリケーションとして使用するスプール・ファイル属性を指定します。ディレクトリー・ファイルの場合、アプリケーション名として使用するファイル名の部分を指定します。最大3つのソースを指定することができます。最初のソースで有効なアプリケーション名が見つからない場合には、2番目のソースが使用されます。2番目のソースで有効なアプリケーション名が見つからない場合には、3番目のソースが使用されます。

*NONE以外のそれぞれの値は、1度だけしか使用することはできません。

要素1: 最初を検査

***APPGRP**

アプリケーション名のソースとしてアプリケーション・グループ名を使用します。この値は、アプリケーションの名前に関係なく、アプリケーション・グループにアプリケーションが1つしか含まれていない場合にも機能します。

***FORMTYPE**

名前のソースとして用紙タイプを使用します。

***USERDATA**

名前のソースとしてユーザー・データを使用します。

***JOBNAME**

名前のソースとしてジョブ名を使用します。

***USRDFNOPT1**

名前のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

***USRDFNOPT2**

名前のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

***USRDFNOPT3**

名前のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

***USRDFNOPT4**

名前のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

***USRDFNDTA**

名前のソースとしてユーザー定義データを使用します。

***FIRST**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドまでの部分を使用します。

***SECOND**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドと2番目のピリオドの間の部分を使用します。

***THIRD**

名前のソースとしてファイル名の2番目のピリオドと3番目のピリオドの間の部分を使用します。

***FOURTH**

名前のソースとしてファイル名の3番目のピリオドと4番目のピリオドの間の部分を使用します。

2番目または3番目のソースの省略時の値は次の通りです。

***NONE**

ソースをこれ以上検査する必要はありません。

要素2: 次を検査および要素3: 最後を検査***FORMTYPE**

名前のソースとして用紙タイプを使用します。

***USERDATA**

名前のソースとしてユーザー・データを使用します。

***JOBNAME**

名前のソースとしてジョブ名を使用します。

***USRDFNOPT1**

名前のソースとしてユーザー定義オプション1を使用します。

***USRDFNOPT2**

名前のソースとしてユーザー定義オプション2を使用します。

***USRDFNOPT3**

名前のソースとしてユーザー定義オプション3を使用します。

***USRDFNOPT4**

名前のソースとしてユーザー定義オプション4を使用します。

***USRDFNDTA**

名前のソースとしてユーザー定義データを使用します。

***FIRST**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドまでの部分を使用します。

***SECOND**

名前のソースとしてファイル名の最初のピリオドと2番目のピリオドの間の部分を使用します。

***THIRD**

名前のソースとしてファイル名の2番目のピリオドと3番目のピリオドの間の部分を使用します。

***FOURTH**

名前のソースとしてファイル名の3番目のピリオドと4番目のピリオドの間の部分を使用します。

2番目または3番目のソースの省略時の値は次の通りです。

***NONE**

ソースをこれ以上検査する必要はありません。

[トップ](#)

エラー用の出力待ち行列 (ERROUTQ)

ADDRPTONDがロードに失敗したスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子1: エラー用の出力待ち行列

ONDERR

ロードされないスプール・ファイルは、ONDERRという名前の出力待ち行列に入れられます。

エラー待ち行列名

ロードに失敗したスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

QUSRRDARS

出力待ち行列はライブラリーQUSRRDARSに入れられます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

処理されたファイルの削除(DLTSPLF)

ADDRPTONDが正常にロードした1つまたは複数のスプール・ファイルを削除するかどうかを指定します。ADDRPTONDが正常に実行されなかった場合には、それらのスプール・ファイルは削除されません。

***NO** それらのスプール・ファイルは自動的に削除されません。

***YES** スプール・ファイルまたはファイルが削除されるのは、報告書が正常にロードされた場合だけです。

トップ

処理済み用の出力待ち行列 (PRCOUTQ)

ADDRPTONDが正常にロードしたスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。これが行われるのは、DLTSPLFが*NOの場合だけです。

修飾子1: 処理済み用の出力待ち行列

ONDPROC

正常にロードされたスプール・ファイルは、ONDPROCという名前の出力待ち行列に入れられます。

処理される待ち行列名

正常にロードされたスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QUSRRDARS

出力待ち行列はライブラリーQUSRRDARSに入れられます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

モニターの自動終了 (ENDMON)

モニターが自動的に終了するかどうか、どのように終了するかを指定します。

***NO** モニターは自動終了されません。

***NOINPUT**

モニターは、モニターされる出力待ち行列またはディレクトリーにそれ以上処理できるスプール・ファイルがなくなった時に終了します。

注: 作動可能状態にあるスプール・ファイルしか処理できません。

*NBRHRS

モニターは、NBRHRSパラメーターで指定された時間だけ実行した後で終了します。

*ENDTIME

モニターがENDTIMEパラメーターで指定された時刻に終了するように指定します。

[トップ](#)

実行のための時間 (NBRHRS)

自動終了する前に、モニターが実行する時間を指定します。

8 モニターは8時間後に自動終了します。

1-999 モニターは1-999時間実行することができます。

[トップ](#)

終了時刻 (ENDTIME)

モニターを自動的に終了する時刻を指定します。

230000

モニターは11:00 PMに自動終了します。

終了時刻

モニターを終了する必要がある時刻を指定します。時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り文字を付けても付けなくても指定することができます。

- 時刻区切り文字なしで、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。この場合に、HHは時、MMは分、SSは秒です。HHの範囲に有効な値は00-23です。MMとSSに有効な値の範囲は00-59です。
- 時刻区切り文字付きで、5桁または8桁のストリングを指定してください。この場合には、時、分、秒を区切るためにユーザー・ジョブで指定された時刻区切り文字が使用されます。このコマンドがコマンド行から入力される場合には、このストリングをアポストロフィで囲む必要があります。ユーザー・ジョブで指定された区切り文字以外の時刻区切り文字を使用すると、このコマンドは失敗します。

注: ENDTIMEが現在の時刻より後にある場合には、モニターは当日のENDTIMEで指定された時刻に終了します。ENDTIMEが現在の時刻より前にある場合には、モニターは翌日のその時刻に終了します。

[トップ](#)

開始するモニターの数 (NBRMON)

これらの特性をもって開始するモニターの数指定します。TYPEが*DIRである時には、1つのモニターしか開始できません。

1 1つのモニターが開始されます。

1-99 開始するモニターの数指定してください。

インスタンス (INSTANCE)

使用するインスタンスの名前を指定します。

QUSROND

省略時のONDEMANDインスタンスが使用されます。

インスタンス名

使用するインスタンスの名前を指定してください。定義により、このインスタンスは、コマンドが実行されるシステム上になければなりません。

ライブラリー・サーバー名

ライブラリー・サーバーのTCP/IPホスト名を指定してください。この名前は、NNN.NNN.NNN.NNN形式のTCP/IPの小数点付き10進数アドレスとして指定することもできます。

サーバー名またはTCP/IPアドレスを入力すると、ONDEMANDは、省略時のポートを使用しているそのサーバー上のインスタンスを使用します。ほとんどの場合には、省略時のインスタンスも使用されます。

トップ

バッチへの投入 (SBMJOB)

現行ジョブの出力待ち行列またはディレクトリーをモニターするか、それとも別のジョブの出力待ち行列またはディレクトリーをモニターするかを指定してください。

注: NBRMONパラメーターが1より大きい場合には、*YESを指定しなければなりません。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QOND400

QOND400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前 (名前/名前) を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QRDARS

ライブラリーQRDARSがジョブ記述のライブラリーとして使用されます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

STRMONONDの例

例1:簡単な例

```
STRMONOND OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバーに保存する予定のスパール・ファイルをモニターするジョブをバッチに投入します。このモニターは、他のパラメーターなしで出すと、アプリケーション・グループ名とアプリケーション名の両方としてスパール・ファイルのスパール・ファイル名属性を使用します。正常に保存されないスパール・ファイルはQUSRRDARSライブラリーのONDEMAND出力待ち行列に移動されます。また、正常に保存されたスパール・ファイルは削除されず、QUSRRDARSライブラリーのONDEMAND出力待ち行列に移動されます。示されたこのコマンドは、終了基準を指定しないでモニター・ジョブを投入し、省略時のインスタンスQUSRRDARS内で処理します。

例2:より複雑な例

```
STRMONOND OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
  APPGRPSRC(*SPLFNAME *FORMTYPE) APPSRC(*USERDATA)
  DLTSPLF(*YES) ENDMON(*ENDTIME) ENDTIME(235900)
  INSTANCE(ACCTING)
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバーに保存する予定のスパール・ファイルをモニターするジョブをバッチに投入します。このモニターは、アプリケーション・グループ名としてスパール・ファイル名とスパール・ファイルの用紙タイプ属性を（この順序で）使用しようとしています。このモニターは、アプリケーション名としてスパール・ファイルのユーザー・データ属性を使用します。このコマンドの例では、正常に処理されたスパール・ファイルは自動的に削除され、正常に保存されないスパール・ファイルはQUSRRDARSライブラリーのONDEMAND出力待ち行列に移動されます。この例では、モニターは現在日の深夜12時1分前に終了します。すべての処理はACCTINGインスタンス内で実行されます。

例3:別のより複雑な例

```
STRMONOND TYPE(*DIR) DIR('/MYDIR') APPGRPSRC(*SECOND)
  APPSRC(*THIRD) DLTSPLF(*YES) INSTANCE(ACCTING)
```

このコマンドは、ONDEMAND共通サーバーに保存する予定のストリーム・ファイルをモニターするジョブをバッチに投入します。このモニターは、アプリケーション・グループ名としてファイル名の2番目の部分を使用し、アプリケーション名としてファイル名の3番目の部分を使用します。このコマンドの例では、正常に処理されたストリーム・ファイルは自動的に削除され、正常に保存されないストリーム・ファイルは、ファイルの終わりに.ERRという接尾部が付加され、現行ディレクトリー内に保持されます。すべての処理はACCTINGインスタンス内で実行されます。

トップ

エラー・メッセージ： STRMONOND

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

OND0231

ライブラリー&2の出力待ち行列&1をモニターすることができない。データ待ち行列が接続されていません。

OND0281

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は別のモニターがすでに活動中であればモニターすることはできない。

RDR0186

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

[トップ](#)

ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDのモニターの開始 (STRMONRDAR)コマンドによって、モニターする出力待ち行列の名前を指定することができます。スプール・ファイルを出力待ち行列に追加する時には、スプール・ファイルはSTRCDSRDARによって自動的に処理されます。モニターは次によって自動的に終了することができます。

- このコマンドを終了する日付および時刻を指定する。
- ENDMONRDARコマンドを実行する。
- ENDJOBコマンドを使用してモニター・ジョブを終了する。OPTION(*CNTRLD)およびDELAY(999999)を指定してください。モニターが現在の報告書の処理を終了すると、ただちにジョブも終了されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RPTNAMSRC	報告書名として使用する値	要素リスト	オプション
	要素 1: 最初を検査	*SPLFNAME, *FORMTYPE, *USERDATA	
	要素 2: 次を検査	*NONE, *FORMTYPE, *USERDATA, *SPLFNAME	
	要素 3: 最後を検査	*NONE, *USERDATA, *SPLFNAME, *FORMTYPE	
VERSION	バージョン	1-99, *HIGHEST	オプション
ERROUTQ	エラー用の出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: エラー用の出力待ち行列	名前, <u>ERROR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QUSRRDARS</u> , *LIBL, *CURLIB	
DLTSPLF	処理済スプール・ファイル削除	*NO, *YES	オプション
PRCOUTQ	処理済み用の出力待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 処理済み用の出力待ち行列	名前, <u>PROCESSED</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QUSRRDARS</u> , *LIBL	
ENDDATE	終了日	文字値, *NONE, *TODAY, *TIME	オプション
ENDTIME	終了時刻	時刻, <u>235500</u>	オプション
CHKITV	検査間隔	0-99999, <u>90</u> , *IMMED, *MAX	オプション
NBRMON	開始するモニターの数	1-99, <u>1</u>	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

モニターを開始する出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 モニターする出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

報告書名として使用する値 (RPTNAMSRC)

報告書名のソースとして使用するスプール・ファイルの属性を指定します。最大3つのソースを指定することができます。最初のソースを使用して有効な報告書定義が見つからない場合には、2番目のソースを使用します。2番目のソースを使用して有効な報告書定義が見つからない場合には、3番目のソースを使用します。

*NONE以外のそれぞれの値は、1度だけしか使用することはできません。

要素1: 最初を検査

*SPLFNAME

報告書名のソースとしてスプール・ファイル名を使用してください。

*FORMTYPE

報告書名のソースとして用紙タイプを使用してください。

*USERDATA

報告書名のソースとしてユーザー・データを使用してください。

要素2: 次を検査および要素3: 最後を検査

*NONE

ソースをこれ以上検査する必要はありません。

***SPLFNAME**

報告書名のソースとしてスプール・ファイル名を使用してください。

***FORMTYPE**

報告書名のソースとして用紙タイプを使用してください。

***USERDATA**

報告書名のソースとしてユーザー・データを使用してください。

[トップ](#)

処理する省略時バージョン (VERSION)

報告書の記憶で使用される報告書定義のバージョンを指定します。

***HIGHEST**

報告書定義の最高位に定義されたバージョンが使用されます。

01-99 使用する報告書のバージョン番号を指定します。

[トップ](#)

エラー用の出力待ち行列 (ERROUTQ)

STRCDSRDARで記憶が正常に実行されないスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子1: エラー用の出力待ち行列

ERROR

記憶されないスプール・ファイルは、**ERROR**という名前の出力待ち行列に入れられます。

名前 記憶が正常に実行されないスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QUSRRDARS

出力待ち行列はライブラリー**QUSRRDARS**に入れられます。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、**QGPL**が使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

処理済スプール・ファイル削除 (DLTSPLF)

STRCDSRDARが正常に保管したスプール・ファイルを削除するかどうかを指定します。STRCDSRDARで正常に実行されない場合には、スプール・ファイルは削除されません。

***NO** スプール・ファイルが自動的に削除されることはありません。

***YES** 報告書を記憶した場合にかぎり、スプール・ファイルが自動的に削除されます。

トップ

処理済み用の出力待ち行列 (PRCOUTQ)

STRCDSRDARが記憶するスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子1: 処理済み用の出力待ち行列

PROCESSED

記憶されるスプール・ファイルはPROCESSEDの名前の出力待ち行列に入れられます。

名前 記憶されたスプール・ファイルを受け取る出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

QUSRRDARS

出力待ち行列はライブラリーQUSRRDARSに入れられます。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが、出力待ち行列の置かれている場所です。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

終了日 (ENDDATE)

モニターが自動終了される日付を指定します。

***NONE**

モニターは自動終了されません。

***TODAY**

モニターは今日のENDTIMEパラメーターに指定された時刻に終了されます。

***TIME** モニターはその日付に関係なく、ENDTIMEパラメーターに指定された時刻に終了されます。ENDTIMEが現在の時刻より後にある場合には、ENDDATEは*TODAYに設定されます。ENDTIMEが現在の時刻より前にある場合には、ENDDATEは有効な明日の日付に設定されます。

終了日 モニターを終了したい日付を指定します。この日付は今日以降の日付でなければなりません。

日付をYYYYMMDDの形式を使用して指定してください。ここで、YYYYは年を表し、MMは月を表し、また、DDは日を表します。年、月、および日の値を区切るためにどのタイプの特殊文字も使用しないでください。

トップ

終了時刻 (ENDTIME)

モニターを自動的に終了する時刻を指定します。

235500

モニターは午後11:55に自動的に終了します。

終了時刻

モニターを終了する必要がある時刻を指定します。この時刻はHHMMSSの形式で指定され、ここのHHは時を、MMは分を、またSSは秒です。

[トップ](#)

検査間隔 (CHKITV)

出力待ち行列でスプール・ファイルが作動可能となるのを、モニターが待つ時間を秒数で指定します。この時間が満了すると、次を確認するための検査が行なわれます。

- ENDDATEおよびENDTIMEの値が一致しているかどうか。
- ENDMONRDARコマンドが出されているかどうか。
- このジョブに対してOPTION(*CNTRLD)を指定したENDJOBが出されているかどうか。

注: 小さい値を指定すると、モニターは使用可能なCPU時間をより多く使用する結果となります。

90 モニターは、スプール・ファイルが作動可能となるのを最大90秒間待ちます。

***IMMED**

モニターは、スプール・ファイルが使用可能になるのを待機しません。スプール・ファイルが使用可能であるかどうかを継続的に検査されます。

***MAX** モニターは、スプール・ファイルが作動可能となるのを永続的に待ちます。スプール・ファイルが作動可能になると、モニターを終了する必要があるかどうか（終了時刻またはENDMONRDARを出したか、あるいはENDJOB）を確認するための検査が行なわれます。

時間間隔

スプール・ファイルが出力待ち行列で作動可能となるのを待つ秒数を指定します。この値は0 - 9999秒の範囲でなければなりません。0の値は、作動可能になったスプール・ファイルがあるかどうかを、モニターが絶えず検査することになります。

注: 小さい値を指定すると、優先順位の低いジョブのパフォーマンスが低下する原因となります。

[トップ](#)

開始するモニターの数 (NBRMON)

これらの特性をもって開始するモニターの数指定します。

1 1つのモニターが開始されます。

1-99 開始するモニターの数を示す数値です。

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

現在のこのジョブまたは他のジョブの出力待ち行列をモニターしたいかを指定します。

注: NBRMONパラメーターが1より大きい場合には、*YESを指定しなければなりません。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBDD)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

STRMONRDARの例

例1: 簡単な例

```
STRMONRDAR OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
```

このコマンドは、ONDEMANDスプール・ファイル保存に保存するスプール・ファイルをモニターするジョブをバッチに投入します。このモニターは、他のパラメーターなしで出すと、報告書定義名としてスプール・ファイルのスプール・ファイル名属性を使用します。正常に保存されないスプール・ファイルはQUSRRDARSライブラリーのERROR出力待ち行列に移動されます。また、正常に保存されたスプール・ファイルは削除されず、QUSRRDARSライブラリーのPROCESSED出力待ち行列に移動されます。示されたこのコマンドは、終了基準を指定しないでモニター・ジョブを投入しします。

例2: より複雑な例

```
STRMONRDAR OUTQ(QUSRRDARS/ONDEMANDQ)
          RPTNAMSRC(*SPLFNAME *FORMTYPE *USERDATA)
```


DLTSPLF(*YES) ENDDATE(*TIME) ENDTIME(235900)

このコマンドは、ONDEMANDスプール・ファイル保存に保存するスプール・ファイルをモニターするジョブをバッチに投入します。このモニターは、報告書定義名としてスプール・ファイル名、次にスプール・ファイルの用紙タイプ、次にユーザー・データ属性を（この順序で）使用しようとしています。このコマンドの例では、正常に処理されたスプール・ファイルは自動的に削除され、正常に保存されないスプール・ファイルはQUSRRDARSライブラリーのERROR出力待ち行列に移動されます。この例では、モニターは現在日の深夜12時1分前に終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRMONRDAR

*ESCAPE メッセージ

OND0281

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は別のモニターがすでに活動中であればモニターすることはできない。

RDR0184

ライブラリー&2の出力待ち行列&1をモニターすることができない。データ待ち行列が接続されていないか、あるいは接続できません。

RDR0186

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

[トップ](#)

オブジェクト管理サイクルの開始 (STROMCRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト管理サイクルの開始 (STROMCRDAR)コマンドは、ディスクと光ディスクまたはテープとの間のデータの移動を管理するオブジェクト管理サイクル(OMC)を開始します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注	
SBMJOB	バッチへの投入	*YES , *NO	オプション	
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション	
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QRDARS400		
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB		

[トップ](#)

バッチへの投入 (SBMJOB)

OMCをバッチまたは対話式で実行する必要があるかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOB)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

STROMCRDARの例

例1:簡単な例

STROMCRDAR

このコマンドは、オブジェクト管理サイクル(OMC)を開始するジョブをバッチに投入します。これはディスクと光ディスクまたはテープとの間のONDEMANDオブジェクト保存データの移動を管理します。

例2:より複雑な例

STROMCRDAR SBMJOB(*NO)

このコマンドは例1に似ていますが、対話式に実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STROMCRDAR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

報告書管理サイクルの開始 (STRRMCRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

報告書管理サイクルの開始 (STRRMCRDAR)コマンドは、ディスクと光ディスクまたはテープとの間の報告書データの移動を管理する報告書管理サイクル(RMC)を開始します。現在処理中のものを終了するのに使用できる時間が十分にある場合には、この機能を制御付き取り消しオプションによって取り消すことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PROCESS	実行する処理	<u>*ALL</u> , *MIGRATION, *EXPIRATION	オプション、定位置 1
RPTCOL	報告書ポリシー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
LOGSTS	移行状況のログ	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SNDFAILMSG	障害メッセージの送信	<u>*NO</u> , *YES	オプション
USER	障害メッセージの送信ユーザー	名前, <u>QSYSOPR</u>	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	<u>*YES</u> , *NO	オプション
JOBID	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QRDARS400</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

実行する処理 (PROCESS)

報告書管理サイクル(RMC)が移行プロセスまたは満了プロセスのいずれかを行なうのか、あるいはその両方を行なうのかを指定します。RMCプロセスにかかる時間が重要な場合には、これらの機能を分離することができます。移行プロセスでは、DASDにある報告書または索引だけを調べます。満了プロセスでは、すべての報告書および索引を調べます。これらのプロセスを分けることによって、移行プロセスを満了プロセスより少ない頻度で実行することができます。

***ALL** 移行と満了の両方のプロセスが実行されます。

***MIGRATION**

移行プロセスだけが実行されます。

***EXPIRATION**

満了プロセスだけが実行されます。

[トップ](#)

報告書ポリシー (RPTCOL)

報告書管理機能サイクルの実行時に使用する報告書ポリシーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書ポリシーが使用されます。これにより、適格なすべての報告書が管理されます。

総称*ポリシー名

RMCが処理する報告書ポリシーの総称名を指定してください。

ポリシー名

RMCが処理する報告書ポリシーの名前を指定してください。これにより、指定されたポリシーを指定している適格な報告書だけが管理されます。

[トップ](#)

移行状況のログ (LOGSTS)

実行中のプロセスの状況をRMCで記録する必要があるかどうかを指定します。

***NO** 障害だけをジョブ・ログに記録します。

***YES** 実行される各プロセスの開始および最終状況をジョブ・ログに記録します。

[トップ](#)

障害メッセージの送信 (SNDFAILMSG)

RMCプロセス中に移行の障害が起こったことを誰かに通知するために、RMCでメッセージを送信する必要があるかどうかを指定します。このメッセージが送信されるのは、実行中の最初の障害に対してだけです。プロセスは停止されませんが、次の報告書に続行されます。このメッセージのためにRMCを終了する必要がある場合には、少なくとも30分が使用可能となる、制御付き取り消しをRMCジョブで出します。これによって、終了する前に、移行中の報告書を終了する時間をRMCに与えられます。

***NO** メッセージを送信しません。

***YES** 移行または満了の障害がある時に、USERパラメーターに指定されたユーザーにメッセージを送信します。

[トップ](#)

障害メッセージの送信ユーザー (USER)

SNDFAILMSGが*YESの時に、通知する必要があるユーザーを指定します。

QSYSOPR

メッセージはシステム操作員に送られます。

名前 メッセージを受け取る必要があるユーザーの名前を指定します。

バッチへの投入 (SBMJOB)

RMCをバッチまたは対話式のいずれかで実行するかを指定します。

***YES** このコマンドは、別のジョブで実行するために投入する必要があります。

***NO** このコマンドは現行ジョブ内で実行しなければなりません。このコマンドを端末装置から入力している場合には、このコマンドを完了するまで、この端末セッションから他の作業を実行することはできません。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

投入されたジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QRDARS400

QRDARS400ジョブ記述が、投入されたジョブのジョブ記述として使用されます。

名前 ジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述名が入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

STRMCRDARの例

例1: 簡単な例

```
STRMCRDAR
```

このコマンドは、報告書管理サイクル(RMC)を開始するジョブをバッチに投入します。これはディスクと光ディスクまたはテープとの間のONDEMANDスプール・ファイル保存およびANystoreデータの移動を管理します。このコマンド例は、すべての移行ポリシーについて移行と満了の両方の処理を実行します。これは、ジョブ・ログに障害だけを記録し、メッセージ待ち行列には障害メッセージを送信しません。

例2: より複雑な例

```
STRMCRDAR PROCESS(*MIGRATION) LOGSTS(*YES) SNDFAILMSG(*YES)
USER(QSYSOPR)
```

このコマンドは、報告書管理サイクル(RMC)の移行処理だけを開始するジョブをバッチに投入します。満了処理は実行されません。成功および障害状況メッセージがジョブ・ログに書き込まれ、障害が起こった場合には、障害メッセージがQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRRMCRDAR

なし

[トップ](#)

ONDEMANDを使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDを使用した検索の開始 (STRRTVRDAR)コマンドは、前に保管されたライブラリー内の単一のオブジェクトを検索します。これは、オブジェクト記述およびオブジェクトの内容を、コマンドに指定されたライブラリーに復元します。このコマンドで検索できるオブジェクトのタイプは、**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターにリストされます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	名前	必須, 定位置 1
LIB	保存されたライブラリー	名前	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ANY , *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *MENU, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL0D, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *WSCST	オプション, 定位置 3
GEN	世代	-98-0, *CURRENT	オプション
OPTION	オプション	*NEW , *OLD, *FREE, *ALL	オプション
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 20 回の繰り返し): 総称名, 名前, *ALL , *NONE	オプション
MBROPT	DBメンバー・オプション	*MATCH , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE , *ALL	オプション
RTVLIB	ライブラリーへの検索	名前, *LIB	オプション
RTVASP	ASPへの検索	1-16, *ARCASP	オプション
DLTSAVF	保管ファイルの削除	*OMC , *IMMED	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

検索するオブジェクトの名前を指定します。ユーザーが指定するオブジェクトは、指定された世代に入っている保管から検索されます。

オブジェクトの世代が保管内に存在していない場合には、診断メッセージが出されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

保存されたライブラリー (LIB)

保管されたオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。ライブラリーへの検索(RTVLIB)パラメーターが指定されない場合には、これはオブジェクトを検索するライブラリーの名前でもあります。ライブラリーの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)

検索されるオブジェクトのタイプを指定します。

***ANY** 指定されたライブラリーから保管された、指定されたオブジェクト名で検出された最初のオブジェクト・タイプが検索されます。

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、検索されるオブジェクトのタイプを指定します。オブジェクト・タイプの完全なリストについては、コマンドのプロンプト中に**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターのフィールドにカーソルを移動して、F4キーを押してください。

[トップ](#)

世代 (GEN)

検索したい保管されたオブジェクトの世代を指定します。

*CURRENT

現在の保管が復元されます。これは、存在する最新の保管です。これは、0の値を指定するのと同じです。

-98-0 オブジェクトの各保管は、新しい世代を表します。最新の保管を検索するには、値0を指定してください。その1つ前の保管を検索するには、値-1を指定してください。最大99の世代を保管することができます。特定オブジェクトの最大は、保管時に使用されるオブジェクト・ポリシーによって制御されます。存在しない世代を指定すると、診断メッセージが出されて、存在する世代数が示されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

オブジェクトをディスクに検索する条件の内容を指定します。

***NEW** オブジェクトを検索するのは、これがライブラリー内に存在していないの場合だけです。

***OLD** オブジェクトを検索するのは、これがすでにライブラリー内に存在している場合だけです。

***FREE**

オブジェクトを検索するのは、これがすでにシステム上のライブラリー内に存在していて、その記憶域が解放されている場合だけです。

***ALL** オブジェクトがシステム上のライブラリー内にすでに存在しているかどうかにかかわらず、保管されたライブラリー内のオブジェクトがシステム上のライブラリーに検索されます。

トップ

ファイル・メンバー (FILEMBR)

復元するデータベース・ファイル・メンバーを指定します。***MATCH**が**DBメンバー・オプション (MBROPT)**パラメーターに指定されている場合には、このパラメーターを指定することはできません。

オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)パラメーターは***ANY**または***FILE**でなければなりません。

このパラメーターには複数個の値を入力することができます。

メンバー名の値は次の通りです。

***ALL** 指定されたファイルからすべてのメンバーが検索されます。

***NONE**

指定されたファイルからメンバーは検索されません。ファイル記述だけが検索されます。

総称*メンバー名

指定されたファイルから検索するメンバーの総称名を指定します。

メンバー名

指定されたファイルから検索するメンバーの名前を指定します。

トップ

DBメンバー・オプション (MBROPT)

システム上ですでに認識されているデータベース・ファイルについて、復元されるメンバーを指定します。***MATCH**を使用しないかぎり、保管されたファイルのメンバー・リストで、システム上の現在のバージョンとメンバー相互が一致している必要はありません。

***MATCH**

保管されたファイルのメンバーが、現在のシステム・バージョンのメンバーと相互に一致している場合には、保管されたメンバーが検索されます。

***ALL** 保管されたファイルのすべてのメンバーが検索されます。

***NEW** 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）だけが検索されます。

***OLD** システム上ですでに認識されているメンバーだけが検索されます。

[トップ](#)

[トップ](#)

ライブラリーへの検索 (RTVLIB)

オブジェクトが保管されたのとは異なったライブラリーに対して、または同じライブラリーに対してオブジェクトを検索するかどうかを指定します。

***LIB** オブジェクトを保管したのと同じライブラリーに対して、オブジェクトが検索されます。

名前 保管したオブジェクトを入れる必要があるライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

ASPへの検索 (RTVASP)

オブジェクトを保管したその補助記憶域プール(ASP)に対して、または他のASP に対してオブジェクトを検索するかどうかを指定します。ユーザーASP(2-32)に対してオブジェクトを検索することができます。ただし、一部のオブジェクトをユーザーASPに復元できない場合があります。

ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細については、ISERIESバックアップおよび回復に示されています。ライブラリーがシステムASPに存在している場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルをユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプはライブラリーのASPに復元されます。

***ARCASP**

オブジェクトを保管したそのASPに対して、オブジェクトが検索されます。

1-32 指定されたASPが1の場合には、システムASPに対してオブジェクトが検索されます。ASPが2 - 32の範囲の場合には、指定されたユーザーASPに対してオブジェクトが検索されます。

[トップ](#)

保管ファイルの削除 (DLTSAVF)

一時保管ファイルをこのコマンドによって削除する必要があるか、あるいはオブジェクト管理サイクル(OMC)によってリテンして管理するかを指定します。複数のコマンドを出して同じ保管から複数のオブジェクトを検索している場合には、最後のオブジェクトを検索するまで、この一時保管ファイルを削除したくないこととなります。

***OMC** 一時保管ファイルはOMCによって管理されます。オブジェクト・ポリシーに指定された保存値は、保管ファイルをディスク上に保管する期間を決定します。

***IMMED**

一時保管ファイルは、このコマンドが完了した時に削除されます。

[トップ](#)

STRRTVRDARの例

例1:簡単な例

```
STRRTVRDAR OBJ(ACCTDETAIL) LIB(ACCTINGLIB)
```

このコマンドは、前にONDEMANDオブジェクト保存を使用して保存されたライブラリーの単一のオブジェクトを検索します。このコマンド例は、ACCTINGLIBライブラリーから保存されたACCTDETAILという名前の任意のオブジェクト・タイプの最新の生成を検索し、これをディスク上のACCTINGLIBライブラリーに戻します。

例2:より複雑な例

```
STRRTVRDAR OBJ(ACCTDETAIL) LIB(ACCTINGLIB) OBJTYPE(*FILE) GEN(-1)
```

```
RTVLIB(ACCTINGTMP) DLTSVAV(*IMMED)
```

このコマンドは例1に似ていますが、オブジェクト・タイプ*FILEだけを検索します。これは、ファイルの最新の生成ではなく、代わりに最新生成保存の1世代前のファイルを検索します。この例でも、検索されたファイルはACCTINGTMPという代替ライブラリーに入れられますが、検索されたオブジェクトが入っていたONDEMANDオブジェクト保存保管ファイルは即時に削除されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： STRRTVRDAR

*ESCAPE メッセージ

CPF1338

SBMJOBコマンドでエラーが起こった。

RDR0320

&1個の記憶報告書が検査され、&2個が処理され、&3個が正常に実行されなかった

[トップ](#)

ONDEMANDの管理の処理 (WRKADMRDAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの管理の処理 (WRKADMRDAR)コマンドによって、ONDEMANDプロダクトを管理することができます。報告書、報告書拡張部分、報告書グループ、ポリシー、オーバーレイ、およびオブジェクト管理テーブルの項目を処理することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	管理担当者機能	*REPORT, *RPTEXT, *RPTGRP, *RPTOVL, *RPTCOL, *OBJCOL, *OCT, *RPTPCY, *OBJPCY	必須, 定位置 1
REPORT	報告書名	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RPTEXT	報告書拡張名	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RPTGRP	報告書グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RPTCOL	報告書ポリシー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
RPTOVL	報告書オーバーレイ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
OBJCOL	オブジェクト・ポリシー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
OCTLIB	OCTライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

実行する管理のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*REPORT

このオプションによって、報告書の定義を処理することができます。このオプションを使用して、報告書の定義を作成、削除、表示、更新、およびコピーすることができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*RPTEXT

このオプションによって、報告書定義拡張部分を処理することができます。このオプションを使用すれば、報告書定義拡張部分を作成、削除、表示、更新、およびコピーすることができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*RPTGRP

このオプションによって、報告書のグループを処理することができます。このオプションを使用して、報告書のグループを作成、削除、表示、更新、およびコピーすることができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*RPTOVL

このオプションによって、報告書のオーバーレイを処理することができます。このオプションを使用して、報告書のオーバーレイ行を作成、削除、表示、および更新することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*RPTCOL

このオプションによって、報告書ポリシー項目を処理することができます。このオプションを使用して、報告書ポリシー項目を作成、削除、表示、および更新することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*OBJCOL

このオプションによって、オブジェクト・ポリシー項目を処理することができます。このオプションを使用して、オブジェクト・ポリシー項目を作成、削除、表示、および更新することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDオブジェクト・アーカイブを導入した場合だけです。

*OCT

このオプションによって、オブジェクト管理テーブル(OCT)内にある項目を処理することができます。このオプションを使用して、OCTの項目を追加、削除、表示、および変更することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDオブジェクト・アーカイブを導入した場合だけです。

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

処理したい報告書定義の名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書の定義が表示されます。

総称 * 報告書名

処理したい報告書定義の総称名を指定します。

報告書名

処理したい報告書定義の名前を指定します。

[トップ](#)

報告書拡張名 (RPTEXT)

処理したい報告書定義拡張部分の名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書定義拡張部分が表示されます。

総称*報告書拡張部分名

処理する報告書定義拡張部分の総称名を指定してください。

報告書拡張部分名

処理する報告書拡張部分の名前を指定します。

[トップ](#)

報告書グループ (RPTGRP)

処理したい報告書グループの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書グループが表示されます。

総称*グループ名

処理したい報告書グループの総称名を指定します。

グループ名

処理したい報告書グループの名前を指定します。

[トップ](#)

報告書ポリシー (RPTCOL)

「報告書ポリシーの処理」画面に項目が表示される報告書ポリシーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書ポリシーが表示されます。

総称*ポリシー名

処理する報告書ポリシーの総称名を指定してください。

ポリシー名

処理する報告書ポリシーの名前を指定してください。

[トップ](#)

報告書オーバーレイ (RPTOVL)

「報告書オーバーレイの処理」画面に表示される報告書オーバーレイを指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての報告書オーバーレイが表示されます。

総称*オーバーレイ名

処理する報告書オーバーレイの総称名を指定します。

オーバーレイ名

処理する報告書オーバーレイの名前を指定します。

トップ

オブジェクト・ポリシー (OBJCOL)

「オブジェクト・ポリシーの処理」画面に項目が表示されるオブジェクト・ポリシーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのオブジェクト・ポリシーが表示されます。

総称*ポリシー名

処理するオブジェクト・ポリシーの総称名を指定してください。

ポリシー名

処理するオブジェクト・ポリシーの名前を指定してください。

トップ

OCTライブラリー (OCTLIB)

「オブジェクト制御テーブルの処理」画面に表示されるオブジェクト制御テーブル(OCT)項目のライブラリーの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのOCT項目が表示されます。

総称*OCT名

処理するOCTライブラリーの総称名を指定します。

OCT名

処理するOCTライブラリーの名前を指定します。

トップ

WRKADMRDARの例

例1:簡単な例

WRKADMRDAR TYPE(*REPORT)

このコマンド例は、すべての報告書定義(*REPORT)についてONDEMANDスプール・ファイル保存管理機能を開始します。指定できる他の管理機能には、報告書拡張(*RPTEXT)、報告書グループ(*RPTGRP)、報告書オーバーレイ(*RPTOVL)、報告書移行ポリシー(*RPTPCY)、およびオブジェクト移行ポリシー(*OBJPCY)があります。

例2:より複雑な例

```
WRKADMRDAR TYPE(*REPORT) REPORT(C*)
```

このコマンドは例1に似ていますが、報告書定義名に総称値が指定されていて、処理する報告書定義リストのサブセットを提供します。例1で説明されている各管理機能では、特定の名前、総称名、または*ALLを入力することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： WRKADMRDAR

***ESCAPE** メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ONDEMANDの媒体の処理 (WRKMEDRDAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの媒体の処理 (WRKMEDRDAR)コマンドによって、ONDEMANDで使用される媒体を指定することができます。テープおよび光ディスク装置用の媒体を定義することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	媒体タイプ	*OPTVOL, *STGGRP, *TAPDEV, *TAPVOL	必須, 定位置 1
OPTVOL	光ディスク・ボリューム	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
STGGRP	記憶グループ	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
TAPDEV	テープ装置	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
TAPVOL	テープ・ボリューム	文字値, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

タイプ (TYPE)

処理したい媒体のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*OPTVOL

このオプションによって、ONDEMANDに対して定義されている光ディスク・ボリュームを処理することができます。このオプションを使用して、光ディスク・ボリュームを追加、除去、表示、および変更することができます。

*STGGRP

このオプションによって、光ディスク記憶グループを処理することができます。このオプションを使用して、記憶グループを作成、削除、表示、および変更することができます。

*TAPDEV

このオプションによって、ONDEMANDに対して定義されているテープ装置を処理することができます。このオプションを使用して、テープ装置を追加、除去、表示、および変更することができます。

*TAPVOL

このオプションによって、ONDEMANDに対して定義されているテープ・ボリュームを処理することができます。このオプションを使用して、テープ・ボリュームを追加、除去、表示、および変更することができます。

光ディスク・ボリューム (OPTVOL)

「光ディスク・ボリュームの処理」画面に表示される項目の光ディスク・ボリュームのIDを指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのボリュームが表示されます。

総称 * 光ディスク・ボリュームID

処理したい光ディスク・ボリュームの総称IDを指定します。

光ディスク・ボリュームID

処理したい光ディスク・ボリュームのIDを指定します。

トップ

記憶グループ (STGGRP)

「ONDEMAND記憶グループの処理」画面に表示される項目の光ディスク記憶グループの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべての記憶グループが表示されます。

総称 * 記憶グループ名

処理したい記憶グループの総称名を指定します。

記憶グループ名

処理したい記憶グループの名前を指定します。

トップ

テープ装置 (TAPDEV)

「ONDEMANDテープ装置の処理」画面に表示される項目のテープ装置の名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのテープ装置が表示されます。

総称 * テープ装置名

処理したいテープ装置の総称名を指定します。

テープ装置名

処理したいテープ装置の名前を指定します。

トップ

テープ・ボリューム (TAPVOL)

「ONDEMANDテープ・ボリュームの処理」画面に表示される項目のテープ・ボリュームのIDを指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

***ALL** すべてのテープ・ボリュームが表示されます。

総称*テープ・ボリュームID

処理したいテープ・ボリュームの総称IDを指定します。

テープ・ボリュームID

処理したいテープ・ボリュームのIDを指定します。

[トップ](#)

WRKMEDRDARの例

例1:簡単な例

```
WRKMEDRDAR TYPE(*OPTVOL)
```

このコマンド例は、すべての光ディスク・ボリューム(*OPTVOL)に対してONDEMAND媒体機能を開始します。指定できる他の媒体タイプには、記憶グループ(*STGGRP)、テープ装置(*TAPDEV)、およびテープ・ボリューム(*TAPVOL)があります。

例2:より複雑な例

```
WRKMEDRDAR TYPE(*OPTVOL) OPTVOL(OND*)
```

このコマンドは例1に似ていますが、光ディスク・ボリューム名に総称値が指定されていて、処理するボリューム名リストのサブセットを提供します。例1で説明されている各媒体タイプでは、特定の名前、総称名、または*ALLを入力することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: WRKMEDRDAR

***ESCAPE** メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ONDEMANDの機密保護の処理 (WRKSECRDAR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ONDEMANDの機密保護の処理 (WRKSECRDAR)コマンドによって、ONDEMANDプロダクトの機密保護を指定することができます。機密保護は、プロダクト、報告書、またはキーのレベルで確立することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	機密保護機能	*USER, *RPTGRP, *REPORT, *KEY	必須, 定位置 1
REPORT	報告書名	名前	オプション
VERSION	バージョン	1-99, <u>01</u>	オプション
RPTGRP	報告書グループ	名前	オプション

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

処理する機密保護のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*USER

このオプションによって、ONDEMANDユーザーの権限を処理することができます。

*REPORT

このオプションによって、報告書の権限を処理することができます。この画面から、ONDEMAND報告書に対して許可されているユーザーを追加または除去するか、あるいは報告書に対してユーザーがもっている権限のレベルを変更することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

*RPTGRP

このオプションによって、報告書グループの権限を処理することができます。この画面から、報告書グループに対して許可されているユーザーを追加または除去するか、あるいは報告書グループに対してユーザーがもっている権限のレベルを変更することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

***KEY** このオプションによって、報告書内の各キーについて、各ユーザーが表示、印刷、またはファックス（使用可能な場合）できるキーの値の範囲を定義することができます。

注: この値を指定できるのは、CONTENT MANAGER ONDEMANDスプール・ファイル・アーカイブを導入した場合だけです。

[トップ](#)

報告書名 (REPORT)

機密保護を定義または変更したい報告書の名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

[トップ](#)

バージョン (VERSION)

キーの機密保護を定義または変更したい報告書のバージョンを指定します。

01 報告書定義の最初のバージョンが使用されます。

01-99 使用する報告書のバージョン番号を指定します。

[トップ](#)

報告書グループ (RPTGRP)

保護したい報告書グループの名前を指定します。

注: コマンドのプロンプト中に、このパラメーターに対してF4キーを押すと、すべての有効な項目のリストが表示されます。

名前 ユーザーに対して許可したいその報告書グループの名前を指定します。

[トップ](#)

WRKSECRDARの例

例1:簡単な例

```
WRKSECRDAR TYPE(*REPORT)
```

このコマンド例は、すべてのONDEMAND報告書(*REPORT)についてONDEMAND機密保護機能を開始します。指定できる他の機密保護タイプには、報告書グループ機密保護(*RPTGRP)、報告書キー機密保護(*KEY)、およびONDEMANDユーザー(*USER)があります。

例2:より複雑な例

```
WRKSECRDAR TYPE(*REPORT) REPORT(CHECKSTMTS)
```

このコマンドは例1に似ていますが、保護する報告書名に特定値が提供されています。

エラー・メッセージ： WRKSECRDAR

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan